

平成26年度
AP 採択事業実績報告書

2015年3月
岡山大学アドミッションセンター

大学改革推進事業「大学教育再生加速プログラム」採択にあたって

アドミッションセンター長

栗原 考次

岡山大学では、知識偏重型入試から思考のプロセスや発想を重視した課題解決型への入試への転換を図っています。特に、アクティブラーニングやクリティカルシンキング等の能力を重点的に育成する国際バカロレア (IB) 教育に注目し、平成 24 年度から IB Diploma 取得者を対象として、一部の学部において IB 入試を国立大学で唯一導入しました。さらに、海外・国内インターナショナルスクール卒業生のギャップタム解消のため、文部科学省からの助言もあり、平成 25 年 10 月から、マッチングプログラムコースにおいて、秋季入学を学部生では初めて実施しています。その後、IB 教育の実態調査や大学入学者の活動状況調査に基づき、IB 校で育成する人材は、本学の教育目標の一つである「異文化理解に基づいた国際性の獲得」の資質とともに、十分な基礎学力のうえに、「国際感覚に優れ、グループリーダーとして活躍できる人」や「コミュニケーション能力、問題解決能力、論理的思考力に優れた人」等の育成、さらに、ボランティア活動等を通じて社会奉仕にも取り組み、人間形成を含めて極めて秀抜していると判断しました。その結果、平成 27 年度から、全学部全学科において若干人（医学部医学科は定員 3 名）を対象に書類審査（一部面接を含む）のみの IB 入試を実施しています。

こうした実績が認められ、平成 26 年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」テーマⅢ「入試改革」における「大学入学者選抜を、意欲・能力・適性を多面的に・総合的に評価・判定するものに転換する事業」に書類審査及び面接審査の結果、採択されました。

本事業では、IB 入試実施大学の拠点校として、IB 教育の調査研究や IB 入試に関する講演会・勉強会などをステークホルダーと企画し、国内の IB 教育の理解を深めるとともに IB 入試の拡大を図ります。具体的には、以下のような事項について調査・研究を行います。

- (1) 6 つの科目（第 1 言語、第 2 言語、個人と社会、実験科学、数学とコンピュータ科学、芸術）の講義内容、教育方法等について調査し、地域別、学習内容別の特徴について検証する。
- (2) 課題論文 (Extended Essay)、知識の理論 (TOK) 及び創造性・活動・奉仕 (CAS) の具体的取り組みについて調査を行う。
- (3) 第 1 言語、第 2 言語として日本語を取得していない外国人 IB 生の取得科目及び成績を調査し、英語のみで受講できるコースでの受入に当たっての留意点について検証する。
- (4) 国際バカロレア資格を取得していない、IB certificate の生徒の実態を調査し、大学入試試験への対応について検討する。

本事業の成果（調査等による検証内容）は、国内大学の IB 入試の実施促進のために提供し、IB 校からの学生・留学生受入の増大に貢献する予定です。また、国内高等学校に対しても、IB 校の教育の特徴を情報提供することで、国の IB 校増加計画（200 校）に貢献し、IB 入試実施大学の拠点校としての役割を果たすことを目指しています。

IB 入試を拡大することは、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価しうる大学入学者選抜制度への改革につながり、さらには、高校教育の改革につながると考えています。

目 次

■ 大学改革推進事業「大学教育再生加速プログラム」採択にあたって	1
■ 岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項.....	3
■ 岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会設置要項.....	5
■ 平成 26 年度 岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿.....	7
■ 平成 26 年度 岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会委員名簿	8
■ 大学教育再生加速プログラムポスター	
・ 大学教育再生加速プログラムポスター 日本語	9
・ 大学教育再生加速プログラムポスター 英語	10
・ 大学教育再生加速プログラムポスター送付先高等学校一覧	11
■ キックオフシンポジウム「国際バカロレア教育と大学教育の接続」	
・ キックオフシンポジウムプログラム.....	13
・ 岡山大学の入試改革について プレゼンテーション資料	14
・ 国際バカロレア入試 プレゼンテーション資料	21
・ アンケート集計結果	25
■ 平成 26 年度海外 IB 校訪問報告書	29
■ 平成 26 年度国内 IB 校訪問報告書	33
■ 勉強会	
・ IB ランチオンミーティング報告	34
・ IB JAPANESE LANGUAGE A: Literature ランチオンミーティング資料.....	35
・ 「知識の理論」ミニ・セミナーちらし	37
・ Prague IB Theory of Knowledge Workshop Agenda	38
・ Theory of Knowledge Prague Workshop Report	40
・ Theory of Knowledge Prague Workshop Report 和訳	42
■ 国際バカロレア入試志願者一覧及び新入生への日本語補習授業について	45
■ 岡山大学国際バカロレア入試の設計	46
■ 国際バカロレア入試についての研修	54

岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項

平成27年1月28日

学 長 裁 定

（設置）

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）が実施する文部科学省事業「大学教育再生加速プログラム（入試改革）」（以下「AP事業」という。）の円滑な実施及び運営のため、本学に、岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会（以下「AP運営委員会」という。）を置く。

（業務）

第2条 AP運営委員会は、国内における国際バカロレア（以下「IB」という。）教育への理解を促進し、IB入試を普及させ、及び本学がIB入試実施大学の拠点としての役割を果たすため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 国内外のIB校に対する広報活動
- 二 IB教育に関する調査研究及び関係機関への情報提供
- 三 国内におけるIB入試の普及活動
- 四 本学における入試改善のための提言
- 五 その他AP事業の実施に関し必要な事項

（組織）

第3条 AP運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教育担当理事
- 二 アドミッションセンター（以下「センター」という。）長
- 三 副センター長
- 四 センターの教員
- 五 本学の教員のうちから教育担当理事が推薦する者 若干人
- 六 その他教育担当理事が必要と認めた者

2 前項第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条 互選により、委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、AP運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（議事）

第5条 AP運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することはできない。

2 AP 運営委員会の協議事項は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 AP 運営委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 AP 運営委員会の事務は、学務部入試課において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、AP 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成27年 1月28日から施行し、平成26年12月1日から適用する。

2 この要項の施行後最初に任命される第3条第5号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会設置要項

平成27年1月28日

学 長 裁 定

(設置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）が実施する文部科学省事業「大学教育再生加速プログラム（テーマⅢ入試改革）」（以下「AP事業」という。）の適正かつ有効な事業の遂行のため、本学に、岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(評価・助言)

第2条 委員会は、AP事業の活動及び成果に関し、学長からの求めに応じて、必要な評価、助言を行う。

(組織)

第3条 委員会は、AP事業に関連する有識者のうちから若干人で組織する。

2 委員の任期は1年とし、アドミッションセンター長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

3 委員は再任できる。

(委員長)

第4条 互選により、委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学務部入試課において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成２７年１月２８日から施行する。
- 2 この要項の施行後最初に任命される委員の任期は、第３条第２項の規定にかかわらず、平成２７年３月３１日までとする。

平成26年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿

所 属 等	職 名	氏 名	期 間	備 考
	教育担当 理事	許 南浩	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第1項
アドミッションセンター長	入試改革・グローバル人材育成 担当 副学長	栗原考次	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第2項
アドミッションセンター副センター長	教授	田中 克己	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第3項
アドミッションセンター	教授	飯塚 誠也	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第4項
〃	准教授	上田 一郎	H26. 12. 1～H27. 3. 31	〃
〃	特任教授	佐竹 恭介	H26. 12. 1～H27. 3. 31	〃
〃	准教授	TAMAS CARMEN	H27. 1. 16～H27. 3. 31	〃
理学部	教授	上田 均	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第5項
農学部	教授	田原 誠	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第5項
言語教育センター	准教授	森岡 明美	H26. 12. 1～H27. 3. 31	第3条第5項

（全10名、敬称略、順不同）

平成26年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム評価助言委員会委員名簿

所 属 等	職 名	氏 名	期 間	備 考
岡山県立 岡山城東高等学校	校長	石井一郎	H27.2.9～H27.3.31	第3条第1項
株式会社 ベネッセコーポレーション	高校事業部進 研模試編集長	内山公宏	H27.2.13～H27.3.31	〃
岡山学芸館高等学校	副校長	加藤武史	H27.2.6～H27.3.31	〃
岡山県教育庁	高校教育課 高校教育課長	近藤 治	H27.2.6～H27.3.31	〃
国際バカロレア機構	アジア太平 洋地区委員	坪谷ニューエル郁子	H27.2.16～H27.3.31	〃
広島インターナショナルスクール	理事長	明木スーザン	H27.2.5～H27.3.31	〃
岡山大学	教育担当 理事	許 南浩	H27.1.28～H27.3.31	〃
岡山大学 アドミッションセンター長	入試改革・グロ ーバル人材育成 担当 副学長	栗原考次	H27.1.28～H27.3.31	〃

(全 8名、敬称略、五十音順)



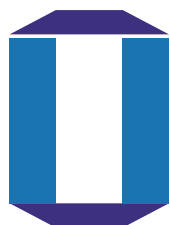
大学教育再生加速プログラム

岡山大学は、文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム（通称：AP）」の「テーマⅢ（入試改革）」において、採択されました。「大学教育再生加速プログラム」は、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的としています。

多面的・総合的に 評価する入試へ

入試改革

国際バカロレア教育への理解を深め、
国際バカロレア入試の拡大を図る。



岡山大学
OKAYAMA UNIV.

<http://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学

検索

■ アドミッションセンター
〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
TEL.086-251-7255



大学教育再生加速プログラム

Okayama University has received a grant for "Theme III: Entrance Exam Reform" under the "Acceleration Program (AP) for University Education Rebuilding" from MEXT in the 2014 academic year.

IB Admission: More Comprehensive and Holistic

Entrance Exam Reform

Promoting a better understanding of
the International Baccalaureate program.
Increasing the acceptance rate for students
from the IB program.



OKAYAMA UNIV.

- 10 -

<http://www.okayama-u.ac.jp/>

OKAYAMA UNIV

SEARCH

■ Admission Center
1-1,2-chome,Tsushima Naka, Kita-ku, Okayama 700-8530 JAPAN
E-mail: acap@okayama-u.ac.jp

大学教育再生加速プログラムポスター送付先高等学校一覧

岡山県	津名高等学校 洲本実業高等学校 岡山朝日高等学校 鳥城高等学校 岡山操山高等学校 岡山大安寺高等学校 岡山芳泉高等学校 岡山工業高等学校 東岡山工業高等学校 岡山東商業高等学校 岡山南高等学校 倉敷青陵高等学校 倉敷天城高等学校 倉敷南高等学校 倉敷中央高等学校 倉敷工業高等学校 水島工業高等学校 倉敷商業高等学校 津山高等学校 津山工業高等学校 津山商業高等学校 津山東高等学校 玉野高等学校 玉島(県立)高等学校 玉島商業高等学校 笠岡高等学校 笠岡工業高等学校 笠岡商業高等学校 西大寺高等学校 井原高等学校 総社高等学校 高梁高等学校 新見高等学校 瀬戸高等学校 瀬戸南高等学校 和気関谷高等学校 邑久高等学校 興陽高等学校 鴨方高等学校 矢掛高等学校 高松農業高等学校 勝山高等学校 蒜山高等学校 勝間田高等学校 林野高等学校 宇治高等学校 倉敷市立工業高等学校 玉島(市立)高等学校 井原市立高等学校 松山高等学校 片上高等学校 精思高等学校 玉野商業高等学校 玉野備南高等学校 真備陵南高等学校 岡山一宮高等学校 倉敷古城池高等学校 玉野光南高等学校 総社南高等学校 岡山城東高等学校 岡山後楽館高等学校 備前緑陽高等学校 倉敷翔南高等学校 高梁城南高等学校 倉敷鷺羽高等学校 岡山御津高等学校 岡山大安寺高等学校 真庭高等学校 山陽女子高等学校 就実高等学校 明誠学院高等学校 創志学園高等学校 岡山商科大学附属高等学校 関西高等学校 倉敷高等学校 岡山理科大学附属高等学校 倉敷翠松高等学校 岡山県美作高等学校 岡山県作陽高等学校 岡山龍谷高等学校 岡山学芸館高等学校 興譲館高等学校 岡山県高梁日新高等学校 清心女子高等学校 金光学園高等学校 おかやま山陽高等学校 川崎医科大学附属高等学校 岡山県共生高等学校 岡山白陵高等学校 岡山高等学校 吉備高原学園高等学校 朝日塾高等学校	津名高等学校 洲本実業高等学校 西宮今津高等学校 宝塚西高等学校 相生高等学校 神崎高等学校 東播磨高等学校 葦合高等学校 神港(市立)高等学校 兵庫商業高等学校 摩耶兵庫高等学校 楠高等学校 西宮(市立)高等学校 西宮東高等学校 尼崎(市立)高等学校 城内高等学校 尼崎工業(市立)高等学校 伊丹(市立)高等学校 伊丹市立高等学校 明石商業高等学校 姫路高等学校 琴丘高等学校 飾磨高等学校 尼崎稲園高等学校 須磨東高等学校 加古川北高等学校 伊丹西高等学校 網干高等学校 明石清水高等学校 高砂南高等学校 三木北高等学校 須磨友が丘高等学校 西宮甲山高等学校 川西北陵高等学校 加古川南高等学校 神戸高塚高等学校 明石城西高等学校 播磨南高等学校 家島高等学校 宝塚北高等学校 姫路飾西高等学校 伊川谷北高等学校 北摂三田高等学校 三田西陵高等学校 兵庫県立大学附属高等学校 六甲アイランド高等学校 西宮香風高等学校 三田祥雲館高等学校 豊岡総合高等学校 武庫荘総合高等学校 国際高等学校 芦屋国際高等学校 科学技術高等学校 神戸工科高等学校 神戸鈴蘭台高等学校 淡路三原高等学校 龍野北高等学校 須磨翔風高等学校 篠山東雲高等学校 尼崎双星高等学校 阪神昆陽高等学校 琴ノ浦高等学校 神戸市立工業高専高等学校 甲南高等学校 甲南女子高等学校 灘高等学校 六甲高等学校 神戸海星女子学院高等学校 松蔭高等学校 神戸龍谷高等学校 神戸第一高等学校 啓明学院高等学校 神港学園神港高等学校 神戸山手女子高等学校 親和女子高等学校 神戸学院大学附属高等学校 神戸村野工業高等学校 神戸常盤女子高等学校 神戸星城高等学校 神戸野田高等学校 育英高等学校 滝川高等学校 須磨学園高等学校 須磨ノ浦女子高等学校 愛徳学園高等学校 神戸国際大学附属高等学校 雲雀丘学園高等学校 小林聖心女子学院高等学校 園田学園高等学校 百合学院高等学校 関西学院高等部高等学校 神戸女学院高等学部高等学校 報徳学園高等学校 仁川学院高等学校 武庫川女子大学附属高等学校 甲子園学院高等学校 甲陽学院高等学校 夙川学院高等学校 芦屋学園高等学校 三田松聖高等学校 柳学園高等学校 白陵高等学校 兵庫県播磨高等学校 日ノ本学園高等学校 賢明女子学院高等学校 淳心学院高等学校 東洋大学附属姫路高等学校 市川高等学校	近畿大学附属豊岡高等学校 神戸弘陵学園高等学校 日生学園第三高等学校 滝川第二高等学校 生野学園高等学校 神戸国際高等学校 第一学院(養父校)高等学校 相生学院高等学校 AIE国際高等学校 神戸大学附属高等学校 明石工業高専高等学校 御影高等学校 神戸高等学校 兵庫高等学校 夢野台高等学校 長田高等学校 星陵高等学校 北須磨高等学校 神戸北高等学校 神戸甲北高等学校 舞子高等学校 東灘高等学校 伊川谷高等学校 兵庫工業高等学校 神戸商業高等学校 湊川高等学校 神戸工業高等学校 長田商業高等学校 青雲高等学校 西宮(県立)高等学校 鳴尾高等学校 西宮北高等学校 西宮南高等学校 芦屋(県立)高等学校 尼崎(県立)高等学校 尼崎北高等学校 尼崎西高等学校 尼崎小田高等学校 伊丹(県立)高等学校 伊丹北高等学校 宝塚高等学校 宝塚東高等学校 川西緑台高等学校 川西明峰高等学校 猪名川高等学校 尼崎工業(県立)高等学校 川西高等学校 神崎工業高等学校 有馬高等学校 柏原高等学校 氷上西高等学校 氷上高等学校 篠山鳳鳴高等学校 篠山産業高等学校 明石高等学校 明石南高等学校 明石北高等学校 明石西高等学校 加古川東高等学校 加古川西高等学校 高砂高等学校 松陽高等学校 小野高等学校 西脇高等学校 多可高等学校 社高等学校 北条高等学校 三木高等学校 三木東高等学校 吉川高等学校 農業高等学校 東播工業高等学校 小野工業高等学校 西脇工業高等学校 播磨農業高等学校 錦城高等学校 西脇北高等学校 姫路東高等学校 姫路西高等学校 姫路南高等学校 姫路別所高等学校 福崎高等学校 香寺高等学校 夢前高等学校 龍野高等学校 赤穂高等学校 上郡高等学校 佐用高等学校 山崎高等学校 伊和高等学校 千種高等学校 姫路工業高等学校	鳥取中央育英高等学校 鳥取東高等学校 鳥取緑風高等学校 湯梨浜高等学校 日野高等学校 八頭高等学校 米子工業高専高等学校 米子工業高等学校 米子高等学校 米子松蔭高等学校 米子西高等学校 米子東高等学校 米子南高等学校 米子白鳳高等学校 米子北高等学校 米子北斗高等学校	山口県	徳山工業高専高等学校 宇部工業高専高等学校 大島商船高専高等学校 岩国高等学校 岩国総合高等学校 岩国商業高等学校 岩国工業高等学校 高森高等学校 柳井高等学校 熊毛南高等学校 光高等学校 熊毛北高等学校 下松高等学校 下松工業高等学校 徳山高等学校 徳山北高等学校 南陽工業高等学校 佐波高等学校 防府高等学校 防府商業高等学校 山口高等学校 山口中央高等学校 山口農業高等学校 宇部高等学校 宇部中央高等学校 宇部西高等学校 宇部商業高等学校 宇部工業高等学校 小野田高等学校 小野田工業高等学校 厚狹高等学校 美祢高等学校 田部高等学校 西市高等学校 豊浦高等学校 長府高等学校 下関西高等学校 下関南高等学校 下関中央工業高等学校 下関工業高等学校 豊北高等学校 萩高等学校 奈古高等学校 下関商業高等学校 防府西高等学校 新南陽高等学校 響高等学校 光丘高等学校 西京高等学校 華陵高等学校 下関高等学校 柳井商工高等学校 徳山商工高等学校 萩商工高等学校 周防大島高等学校 青嶺高等学校 田布施農工高等学校 大津緑洋高等学校 防府商工高等学校 美祢青嶺高等学校 高水高等学校 柳井学園高等学校 聖光高等学校 山口県桜ヶ丘高等学校 誠英高等学校 高川学園高等学校 中村女子高等学校 野田学園高等学校 山口県鴻城高等学校 宇部鴻城高等学校 慶進高等学校 成進高等学校 宇部フロンティア大学付属香川高等学校 サビエル高等学校 下関国際高等学校 梅光学院高等学校 早鞆高等学校 下関短期大学付属高等学校 長門高等学校 萩光塩学院高等学校 精華学園高等学校 松蔭高等学校	香川県	香川高専高等学校 小豆島高等学校 土庄高等学校 三本松高等学校 津田高等学校 石田高等学校 志度高等学校 高松東高等学校 高松高等学校	高松工業高等学校 高松商業高等学校 高松南高等学校 農業経営高等学校 飯山高等学校 坂出高等学校 坂出商業高等学校 坂出工業高等学校 丸亀高等学校 丸亀城西高等学校 善通寺第一高等学校 琴平高等学校 高瀬高等学校 笠田高等学校 観音寺第一高等学校 観音寺中央高等学校 三豊工業高等学校 高松第一高等学校 高松西高等学校 高松北高等学校 香川中央高等学校 高松桜井高等学校 三木高等学校 多度津高等学校 藤井学園寒川高等学校 英明高等学校 高松中央高等学校 香川県大手前高松高等学校 坂出第一高等学校 香川県大手前高等学校 香川県藤井高等学校 尽誠学園高等学校 香川西高等学校 香川誠陵高等学校 村上学園高等学校 禅林学園高等学校	広島県	広島大学附属高等学校 広島大学附属福山高等学校 広島商船高専高等学校 呉工業高専高等学校 広島観音高等学校 広島国泰寺高等学校 広島皆実高等学校 広島工業(県立)高等学校 広島商業(県立)高等学校 海田高等学校 可部高等学校 廿日市高等学校 佐伯高等学校 宮島工業高等学校 大竹高等学校 大柿高等学校 賀茂高等学校 西条農業高等学校 加計高等学校 千代田高等学校 賀茂北高等学校 河内高等学校 黒瀬高等学校 五日市高等学校 安芸高等学校 安古市高等学校 広島高等学校 呉宮原高等学校 呉三津田高等学校 音戸高等学校 呉工業高等学校 呉商業高等学校 尾道東高等学校 尾道北高等学校 尾道商業高等学校 三原高等学校 三原東高等学校 忠海高等学校 竹原高等学校 御調高等学校 世羅高等学校 瀬戸田高等学校 福山誠之館高等学校 福山葦陽高等学校 福山工業高等学校 松永高等学校 沼南高等学校 神辺高等学校 福山商業高等学校 府中高等学校 上下高等学校 油木高等学校 大門高等学校 福山明王台高等学校 東城高等学校 西城紫水高等学校 庄原実業高等学校 庄原格致高等学校 三次青陵高等学校 三次高等学校 吉田高等学校 向原高等学校 日影館高等学校 舟入高等学校 基町高等学校 広島商業(市立)高等学校 広島工業(市立)高等学校 大手町商業高等学校 呉高等学校 広島県尾道南高等学校 府中東高等学校	高陽高等学校 熊野高等学校 広島井口高等学校 豊田高等学校 安西高等学校 安芸府中高等学校 神辺旭高等学校 廿日市西高等学校 祇園北高等学校 高陽東高等学校 呉昭和高等学校 安佐北高等学校 湯来南高等学校 沼田高等学校 安芸南高等学校 美鈴が丘高等学校 西高等学校 東高等学校 大崎海星高等学校 戸手高等学校 因島高等学校 芦品まなび学園高等学校 広島高等学校 総合技術高等学校 修道高等学校 崇徳高等学校 広陵高等学校 山陽高等学校 広島県瀬戸内高等学校 進徳女子高等学校 安田女子高等学校 比治山女子高等学校 広島女学院高等学校 ノートルダム清心高等学校 広島翔洋高等学校 広島音楽高等学校 広島国際学院高等学校 鈴峯女子高等学校 山陽女学園高等部高等学校 AICJ高等学校 広島新庄高等学校 広島文教女子大学附属高等学校 広島工業大学高等学校 広島学院高等学校 広島城北高等学校 広島なぎさ高等学校 広島桜が丘高等学校 呉港高等学校 清水ヶ丘高等学校 武田高等学校 盈進高等学校 福山暁の星女子高等学校 近畿大学附属広島(福山校)高等学校 尾道高等学校 広島三育学院高等学校 銀河学院高等学校 英数学館高等学校 如水館高等学校 近畿大学附属広島(東広島校)高等学校 東林館高等学校 呉青山高等学校 並木学院高等学校 師友塾高等学校 並木学院福山高等学校	島根県	松江工業高専高等学校 安来高等学校 松江北高等学校 松江南高等学校 松江農林高等学校 松江工業高等学校 松江商業高等学校 大東高等学校 横田高等学校 三刀屋高等学校 飯南高等学校 平田高等学校 出雲高等学校 出雲工業高等学校 出雲商業高等学校 出雲農林高等学校 大社高等学校 大田高等学校 速摩高等学校 矢上高等学校 江津高等学校 江津工業高等学校 浜田高等学校 浜田商業高等学校 浜田水産高等学校 益田高等学校 吉賀高等学校 津和野高等学校 隠岐高等学校 隠岐島前高等学校 隠岐水産高等学校 松江市立女子高等学校 松江東高等学校 情報科学高等学校 益田翔陽高等学校 島根中央高等学校 宍道高等学校 開星高等学校 立正大学淞南高等学校 松徳学院高等学校 松江西高等学校 出雲北陵高等学校 出雲西高等学校 石見智翠館高等学校
-----	--	--	---	--	-----	---	-----	---	---	-----	--	--	-----	--

大学教育再生加速プログラムポスター送付先高等学校一覧

明誠高等学校	明善高等学校	岐阜北高等学校	守山高等学校	昭和薬科大学附属高等学校
益田東高等学校	久留米高等学校	岐山高等学校	水口東高等学校	槻の木高等学校
キリスト教愛真高等学校	伝習館高等学校	岐阜農林高等学校	米原高等学校	千里青雲高等学校
中四国以外の地域	八女高等学校	大垣北高等学校	虎姫高等学校	鹿児島情報高等学校
智辯学園和歌山高等学校	球陽高等学校	桜井高等学校	高島高等学校	ラ・サール高等学校
帯広柏葉高等学校	南高等学校	高田高等学校	立命館守山高高等学校	鳳凰高等学校
近畿大学附属和歌山高等学校	嘉穂高等学校	一条高等学校	小林高等学校	出水中央高等学校
北広島高等学校	鞍手高等学校	平城高等学校	三重高等学校	志學館高等部高等学校
北見北斗高等学校	春日高等学校	益田清風高等学校	日生学園第一高等学校	ブール学院高等学校
札幌光星高等学校	香住丘高等学校	奈良北高等学校	膳所高等学校	追手門学院大手前高等学校
藤女子高等学校	輝翔館高等学校	飛騨神岡高等学校	宮崎大宮高等学校	大阪学芸高等学校
クラーク記念国際高等学校	門司学園高等学校	鎮西学院高等学校	宮崎南高等学校	開明高等学校
札幌東高等学校	向陽高等学校	長崎日本大学高等学校	宮崎西高等学校	履正社高等学校
札幌西高等学校	横浜共立学園高等学校	青雲高等学校	宮崎商業高等学校	大阪借星学園高等学校
札幌北高等学校	聖光学院高等学校	济々覺高等学校	都城泉ヶ丘高等学校	初芝立命館高等学校
気仙沼高等学校	桐蔭学園高等学校	熊本高等学校	都城西高等学校	関西大学第一高等学校
仙台南高等学校	湘南白百合学園高等学校	第二高等学校	石山高等学校	明星高等学校
泉館山高等学校	藤嶺学園藤沢高等学校	八代高等学校	彦根東高等学校	桃山学院高等学校
仙台青陵高等学校	敬愛高等学校	鶯谷高等学校	宮崎北高等学校	上宮高等学校
仙台育英学園高等学校	東筑紫学園高等学校	帝塚山高等学校	比叡山高等学校	同志社香里高等学校
秋田北高等学校	明治学園高等学校	天理高等学校	光泉高等学校	高槻高等学校
米沢興譲館高等学校	九州国際大学付属高等学校	岐阜東高等学校	京都教育大学附属高等学校	大阪星光学院高等学校
鶴岡南高等学校	近畿大学附属福岡高等学校	天草高等学校	洛北高等学校	大阪女学院高等学校
磐城高等学校	福岡大学附属大濠高等学校	湧心館高等学校	嵯峨野高等学校	大谷高等学校
清陵情報高等学校	福岡大学附属若葉高等学校	熊本北高等学校	桂高等学校	池田学園池田高等学校
水戸第一高等学校	西南学院高等学校	東稜高等学校	桃山高等学校	屋久島おおぞら高等学校
土浦第一高等学校	上智福岡高等学校	磐田南高等学校	亀岡高等学校	那覇高等学校
竹園高等学校	那覇国際高等学校	熊本信愛女学院高等学校	福知山高等学校	首里高等学校
茨城高等学校	新潟明訓高等学校	東大寺学園高等学校	西舞鶴高等学校	四天王寺高等学校
土浦日本大学高等学校	筑紫女学園高等学校	熊本国府高等学校	宮津高等学校	大阪薫英女学院高等学校
江戸川学園取手高等学校	東福岡高等学校	熊本学園大学付属高等学校	加悦谷高等学校	関西大倉高等学校
常総学院高等学校	福岡工業大学附属城東高等学校	名古屋大学教育学部附属高等学校	峰山高等学校	常翔学園高等学校
鹿島学園高等学校	久留米信愛女学院高等学校	旭丘高等学校	星林高等学校	大阪産業大学附属高等学校
宇都宮高等学校	久留米大学附設高等学校	明和高等学校	耐久高等学校	阪南大学高等学校
宇都宮商業高等学校	富山高専高等学校	松蔭高等学校	日高高等学校	近畿大学附属高等学校
作新学院高等学校	富山高等学校	智辯学園高等学校	西京高等学校	大阪電気通信大学高等学校
文星芸術大学附属高等学校	高岡高等学校	奈良学園高等学校	堀川高等学校	清風高等学校
幸福の科学学園高等学校	高岡商業高等学校	西大和学園高等学校	紫野高等学校	常翔啓光学園高等学校
群馬工業高専高等学校	高岡南高等学校	智辯学園奈良カレッジ高等部高等学校	洛西高等学校	向陽台高等学校
前橋(県立)高等学校	八女学院高等学校	奈良学園登美ヶ丘高等学校	豊芸高等学校	清風南海高等学校
高崎高等学校	九州産業大学付属九州高等学校	旭野高等学校	鳥羽高等学校	金蘭千里高等学校
高崎女子高等学校	高岡第一高等学校	一宮高等学校	菟道高等学校	清教学園高等学校
浦和(県立)高等学校	金沢大学附属高等学校	一宮西高等学校	南陽高等学校	関西創価高等学校
川越高等学校	小松高等学校	文徳高等学校	城南菱創高等学校	近畿大学泉州高等学校
浦和第一女子高等学校	金沢錦丘高等学校	真和高等学校	田辺高等学校	大阪国際大和田高等学校
大宮高等学校	金沢二水高等学校	別府鶴見丘高等学校	新宮高等学校	追手門学院高等学校
慶應義塾志木高等学校	金沢桜丘高等学校	大分上野丘高等学校	宮崎第一高等学校	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校
東京成徳大学深谷高等学校	七尾高等学校	大分舞鶴高等学校	鶴丸高等学校	東海大学付属仰星高等学校
星野高等学校	自由ヶ丘高等学校	大府高等学校	甲南高等学校	四天王寺羽曳丘高等学校
栄東高等学校	佐賀西高等学校	横須賀高等学校	鹿児島中央高等学校	初芝富田林高等学校
春日部共栄高等学校	佐賀北高等学校	半田高等学校	錦江湾高等学校	開智高等学校
城北埼玉高等学校	唐津東高等学校	刈谷高等学校	川内高等学校	和歌山信愛高等学校
開智高等学校	伊万里高等学校	西尾高等学校	加治木高等学校	大阪桐蔭高等学校
佐原高等学校	小城高等学校	岡崎高等学校	加治木工業高等学校	長尾谷高等学校
木更津高等学校	武雄高等学校	岡崎北高等学校	国分高等学校	天王寺学館高等学校
成田高等学校	鹿島高等学校	豊田西高等学校	大谷高等学校	関西大学高等部高等学校
市川高等学校	白石高等学校	時習館高等学校	京都学園高等学校	普天間高等学校
東邦大学付属東邦高等学校	岩見沢東高等学校	豊橋東高等学校	同志社高等学校	コザ高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校	北陸学院高等学校	橋本高等学校	東山高等学校	宮古高等学校
東京学芸大学附属高等学校	金沢高等学校	粉河高等学校	洛星高等学校	八重山高等学校
西高等学校	星稜高等学校	豊橋南高等学校	洛南高等学校	
日比谷高等学校	藤島高等学校	那賀高等学校	立命館高等学校	
南多摩高等学校	高志高等学校	向陽高等学校	京都文教高等学校	
武蔵(都立)高等学校	羽水高等学校	向陽高等学校	京都女子高等学校	
九段高等学校	勝山高等学校	西春高等学校	京都光華高等学校	
大妻高等学校	武生高等学校	阿久比高等学校	京都産業大学附属高等学校	
育徳館高等学校	敦賀高等学校	大分西高等学校	京都聖母学院高等学校	
麻布高等学校	若狭高等学校	佐伯鶴城高等学校	平安女学院高等学校	
東洋英和女学院高等部高等学校	北陸高等学校	竹田高等学校	京都共栄学園高等学校	
渋谷教育学園渋谷高等学校	甲府第一高等学校	日田高等学校	福知山成美高等学校	
桜蔭高等学校	甲府南高等学校	中津南高等学校	京都成章高等学校	
日本大学豊山高等学校	駿台甲府高等学校	中津北高等学校	大阪教育大学附属天王寺高等学校	
東京成徳大学高等学校	山梨学院大学附属高等学校	安心院高等学校	大阪教育大学附属池田高等学校	
開成高等学校	長野(県立)高等学校	大分豊府高等学校	大阪教育大学附属平野高等学校	
京都高等学校	上田高等学校	宇佐高等学校	鹿屋高等学校	
小倉高等学校	上田染谷丘高等学校	国東高等学校	沖縄尚学高等学校	
小倉西高等学校	奈良女子大学附属高等学校	小牧南高等学校	北野高等学校	
開邦高等学校	奈良高等学校	半田東高等学校	池田高等学校	
東京高等学校	郡山高等学校	名古屋南高等学校	豊中高等学校	
鷗友学園女子高等学校	畝傍高等学校	岡崎西高等学校	箕面高等学校	
戸畑高等学校	榎原高等学校	和歌山北高等学校	春日丘高等学校	
八幡高等学校	致遠館高等学校	愛知高等学校	茨木高等学校	
東筑高等学校	弘学館高等学校	愛知淑徳高等学校	三島高等学校	
駒場東邦高等学校	東明館高等学校	東海高等学校	大手前高等学校	
豊島岡女子学園高等学校	長崎東高等学校	大分東明高等学校	泉尾高等学校	
富士見高等学校	長崎西高等学校	名古屋高等学校	四條畷高等学校	
武蔵(私立)高等学校	長崎南高等学校	南山高等学校	寝屋川高等学校	
明法高等学校	長崎北高等学校	滝高等学校	牧野高等学校	
桐朋高等学校	佐世保南高等学校	春日丘高等学校	清水谷高等学校	
吉祥女子高等学校	佐世保北高等学校	桐蔭高等学校	高津高等学校	
宗像高等学校	佐世保西高等学校	岡崎城西高等学校	今宮高等学校	
新宮高等学校	大村高等学校	大成高等学校	天王寺高等学校	
福岡魁誠高等学校	諫早高等学校	延岡高等学校	住吉高等学校	
福岡高等学校	島原高等学校	海陽高等学校	東住吉高等学校	
筑紫丘高等学校	口加高等学校	桑名高等学校	生野高等学校	
福岡中央高等学校	五島高等学校	四日市高等学校	富田林高等学校	
城南高等学校	上五島高等学校	四日市南高等学校	泉陽高等学校	
修猷館高等学校	吉岐高等学校	神戸高等学校	三国丘高等学校	
筑紫中央高等学校	対馬高等学校	津高等学校	鳳高等学校	
筑紫高等学校	長崎北陽台高等学校	津西高等学校	泉北高等学校	
糸島高等学校	西陵高等学校	津東高等学校	屋久島高等学校	
頼明館高等学校	純心女子高等学校	松阪高等学校	冲永良部高等学校	
市ヶ尾高等学校	西海学園高等学校	伊勢高等学校	鹿児島玉龍高等学校	
金井高等学校	伊那北高等学校	日向高等学校	岸和田高等学校	
横須賀(県立)高等学校	飯田高等学校	妻高等学校	農芸高等学校	
湘南高等学校	松本深志高等学校	木本高等学校	東高等学校	
西湘高等学校	南安曇農業高等学校	海星高等学校	大阪市立高等学校	
相模原(県立)高等学校	佐久長聖高等学校	高田高等学校	北千里高等学校	
厚木高等学校	岐阜高等学校	八日市高等学校	日根野高等学校	



大学教育再生加速プログラム採択事業
キックオフシンポジウム
～ 国際バカロレア教育と大学教育の接続 ～

◆日 時 平成26年10月30日(木) 13:30～17:00

◆場 所 岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

13:00～ 受付

13:30～ 開会の挨拶 岡山大学長 森田 潔

13:45～ 来賓の挨拶 文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐 八島 崇

14:00～ 講演

■入試改革について 岡山大学理事・副学長(教育担当) 許 南浩

■海外IB校が日本の大学に期待すること

International School of Paris

国際バカロレア日本語学科教師・同試験官 石村 清則

■世界で生きるチカラー国際バカロレアが子どもたちを強くするー

国際バカロレア機構アジア太平洋地区理事 坪谷ニユウエル郁子

15:00～ 休憩

15:30～ パネルディスカッション

コーディネーター

岡山大学副学長(入試改革・グローバル人材育成担当) 栗原 考次

パネリスト

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐 八島 崇

筑波大学アドミッションセンターセンター長 島田 康行

立命館宇治中学校・高等学校教頭(国際教育担当) 東谷 保裕

加藤学園暁秀高等学校中学校バイリンガルコースディレクター ウェンドフェルト延子

岡山大学アドミッションセンター副センター長 田中 克己

17:00 閉会

17:30～ 意見交換会(会場:Jテラス/会費制90分)

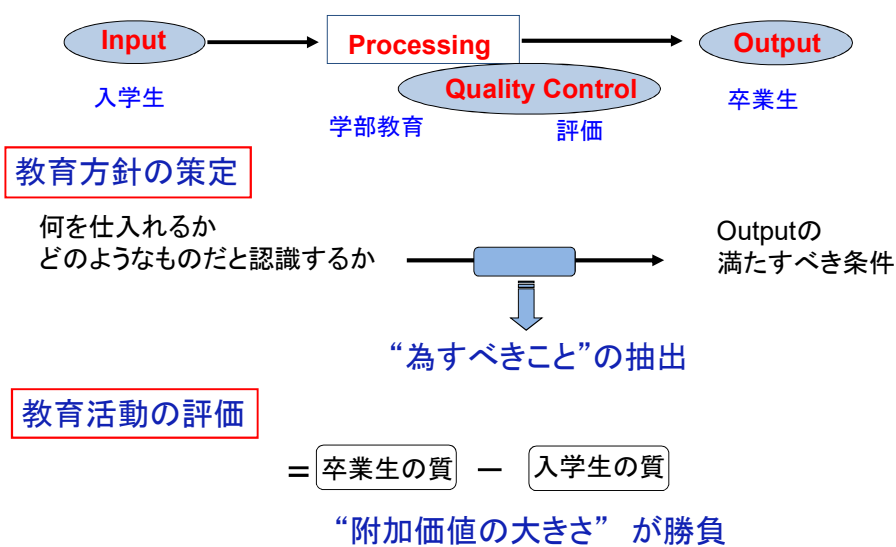
岡山大学AP・キックオフシンポジウム
「国際バカロレア教育と大学教育の接続」

岡山大学の入試改革について

岡山大学 理事・副学長 （教育担当）

許 南浩

◆ 教育機関としての教育



◆ ディプロマ・ポリシー 社会に対する約束



岡山大学のディプロマ・ポリシー

- ・人間性に富む豊かな教養【教養】
- ・目的につながる専門性【専門性】
- ・効果的に活用できる情報力【情報力】
- ・時代と社会をリードする行動力【行動力】
- ・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

例) 自動車製造会社

- ・スピードが出ます
- ・燃費がいいです
- ・事故時でも安全です
- ・長持ちします



- ・最高時速は220 km/hです
- ・燃費は 23 km/L です
- ・新型エアバッグを備えています
- ・20万キロまでの走行を保証します



入学者の質
「DPの素養」

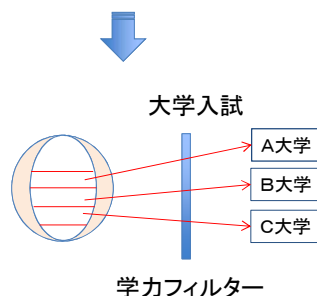
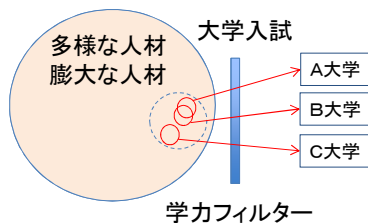
+

付加価値の増大
「学びの強化」

=

卒業生の質が
「要」

◆ 大学入試の考え方



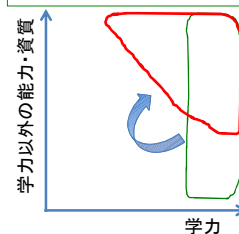
確かな学力

知識・技能
思考力・判断力・表現力
主体性・多様性・協働性

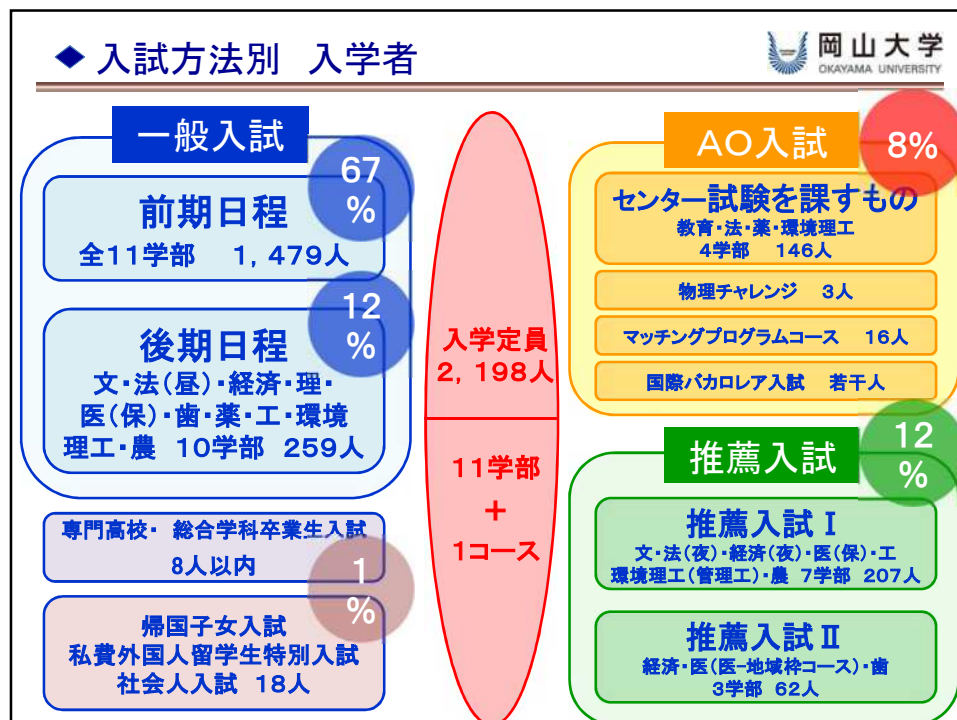
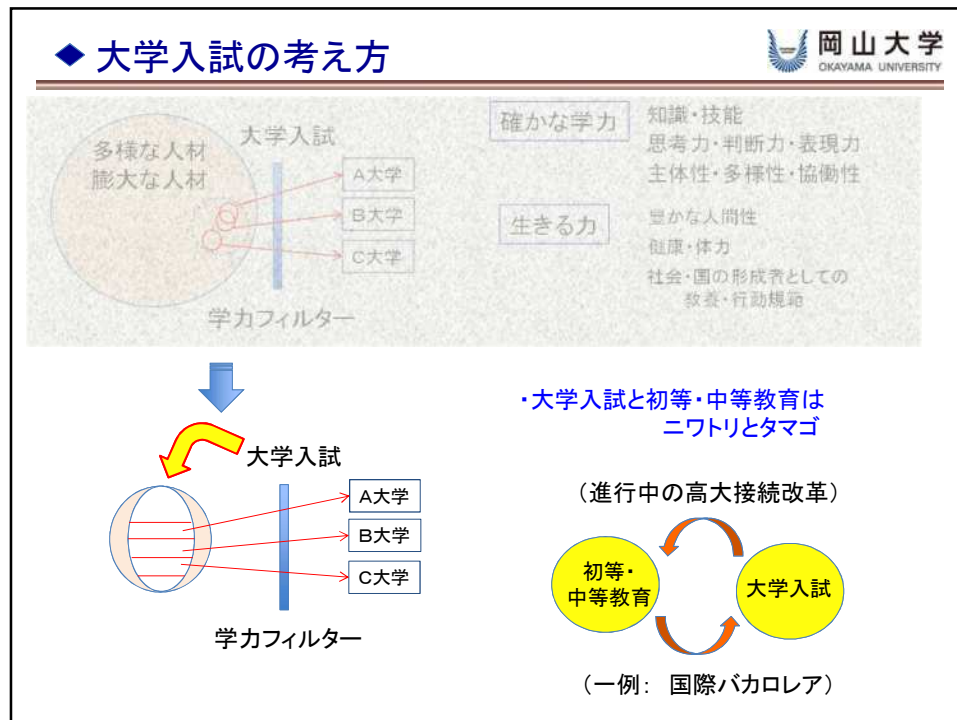
生きる力

豊かな人間性
健康・体力
社会・国の形成者としての
教養・行動規範

学力偏重から多面的評価へ



- ・能力・資質: 測れるものと、測れないもの
- ・学力とその他の能力・資質の関係



◆ 岡山大学の入試改革



「アドミッションポリシー」

「多様な入試制度により国内外から広く受け入れ」

～これまで～

基礎学力：知識、思考力、理解力

要素Ⅰ：語学力、コミュニケーション能力

(要素Ⅰ～Ⅲ：グローバル人材育成推進会議)

～これから～

基礎学力、要素Ⅰに加えて

要素Ⅱ：

主体性、積極性、チャレンジ精神、
協調性、柔軟性、責任感、使命感

要素Ⅲ：

異文化に対する理解と日本人としての
アイデンティティ

	基礎学力			要素Ⅰ		要素Ⅱ	要素Ⅲ
	知識	思考力	理解力	語学力	コミュニケーション力	主体性 積極性 協調性 柔軟性 責任感 使命感	異文化 理解力
センター	◎	○	○	○			
個別学力	○	◎	◎	○			
面接	○	○	○	○	◎	◎	
プレゼン	○	○	○		○	○	
集団面接	△	△	○		○	○	○
小論文	○	○	○				○
志望理由書						○	○
活動報告書					○	○	◎
学習計画書						○	○

◆ 国際バカロレアとは



- ▶ 1968年 国際バカロレア機構発足
認証、共通試験による
教育の国際的な質保証

育成する人材像

全人 (holistic) 教育

Knowledgeable
Thinkers

Open-minded
Communicators
Caring

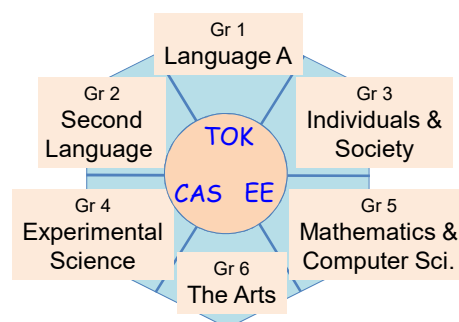
Inquires
Risk-takers

Principled
Balanced
Reflective

IB DP得点と進学先の例(イメージ)

・MIT	40
・Harvard	39
・Tokyo	37

IB Diploma Program



TOK: Theory of Knowledge

EE: Extended Essay

CAS: Creativity, Action, Service

- ・6科目群 各7点満点
- ・TOK / EE 3点満点
- ・CASは必修
- ・45点満点中 24点以上必要

◆ 国際バカロレア入試導入の経緯と実績



- ▶ 平成21年 オーストラリア等のIB校を訪問調査
- ▶ 平成22年7月 学内でIB校教育説明会を開催
- 11月 欧州のIB校を訪問調査
- 12月 IB入試(H24)導入を記者発表
- ▶ 平成23年1月 東南アジアのIB校を訪問調査
- 8月 第1回IB入試を実施(理、工、農、医保、MP)
- ▶ 平成24年 第2回IB入試を実施
- 欧州のIB校で説明会実施
- ▶ 平成25年 秋入学IB入試を実施
- 環境理工も春入学IB入試を導入

IB入試実績

年度	2012 (春)	2013 (春)	2013 (秋)	2014 (春)	2014 (秋)	2015 (春)	計
志願者数	1	1	3	2	6	9	22
合格者数	1	1	2	1	3	6	14
入学者数	1	0	1	0	3	?	5

◆ 岡山大学の国際バカロレア入試(2015)



2015年度(4月入学)入試より
全11学部+1コースで実施

●書類審査のみ

文学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、
環境理工学部、農学部、MPコース

●書類審査 + 面接

教育学部、医学部(医学科、保健学科)、歯学部

※書類: 「成績評価証明書」, 「自己推薦書」, 「評価書」

※付帯条件: 言語Aを日本語で4以上
募集単位毎の指定科目あり

※定員: 医学部医学科 3名、他は若干名

◆ 国際バカロレア入試の意義と課題



IB教育、入試の意義

- ▶ IB教育の理念は、現在大学に求められている人材育成像と合致
- ▶ 高校あるいはそれ以前からのグローバル人材育成
- ▶ 教育内容・方法、輩出人材の国際共通的質保証

IB教育、入試の課題

- ▶ IB Diplomaを有する人材の量的確保
現在、海外のIB校で日本語を母語として選択している学生は～500人／年程度
- ▶ 国内IB校の拡充が必須
 - ・日本再興戦略：2018年までにIB校 200校 日本語DPの開発・導入
 - ・濃密な教育に伴う高額のコストをどう担保するか
 - ・IB教育に必要な教員の確保、質の低下の防止

◆ 岡山大学の今後の方針



入試改革の課題

知識重視、暗記中心の知識偏重型から、思考のプロセスや発想を重視した課題解決型の入試が必要。

(教育再生実行会議、第四次提言 (H25.10))

岡山大学ディプロマポリシー(5つの学力)を養成するにふさわしい資質と基礎学力をもった人材の受け入れが必要。

※5つの学力とは

- ①豊かな教養、②専門性、③情報力、④行動力、⑤生涯にわたる自己実現力



多面的・総合的入試

国際バカロレア入試による受け入れ拡大

平成30年度までに全入学定員数の5%をIB入試採用とすることを旨とする。

国際バカロレア入試の調査研究

調査の趣旨:

1. 国内外のIB校を調査し、国内におけるIB校学生の成績分布等と各種試験との関係を検証すると共に、海外におけるIB校学生の地域別、学習内容別の特徴を検証する。
2. 日本語を修得しない(言語Aが日本語でない)外国人IB生の取得科目及び成績を調査し、受入に当たっての留意点を検証する。

訪問予定校:

海外インターナショナルスクール 欧州、アジア、ニュージーランド、北米
国内インターナショナルスクール13校、一校6校

調査・研究内容:

- ① 6つの科目の講義内容、教育方法等について調査し、地域別、学習内容別の特徴について検証
- ② 課題論文、知識の理論、創造性・活動・専攻の具体的な取り組みの調査
- ③ 英語のみで受講できるグローバルマッピングコースでの受入に当たっての留意点について検証
- ④ IB certificateの学生の実態を調査し、大学入試への対応について検討

これらの調査・研究を基に、国際バカロレア入試についての講演会・勉強会等を高等学校関係者と企画し、国内の国際バカロレア入試の拡大を図る。

IB学生の受入効果の実験検証

- IB入試により受け入れた学生の一般学生への影響についての検証
- ・グローバル人材育成特別コースでの実績の検証
 - ・本入試における学生の追跡調査(成績、進路等)
 - ・当該学生、および周辺学生へのインタビュー調査

◆ 岡山大学の目指すもの



大学入学者選抜を、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換する
高等学校教育の連携を強力に進める

社会のグローバル化に
対応した人材育成

高等学校教育の質の
確保・向上

世界のリーダーとなる
べき人材の排出

国内の大学との情報交換

IB校 200校 → 大学
受け入れ IB入試

国内および国外から
優秀な学生を受け入れ

本来の持つ能力を
伸ばしつつ、教養・
専門性を強化

高校教育の改革を推進

大学の人材育成機能の抜本的強化

能力・意欲・適性を多面的・総合的に
評価しうる大学入学者選抜制度へ

今後の調査・研究の成果により、全国のIB入試の先導的役割を目指す



IB入試(10月入学)

出願資格(2015年入試)

- 2013年11月～2015年5月のIB試験で**IB資格証書**取得
または取得見込み
(2015年9月末までに18歳に達する者)
- ア) **Japanese A**を履修し、成績評価**4以上**
イ) 次の指定科目を上級レベル(Higher Level)で履修し、
成績評価4以上

学部・学科	募集人員	指定科目
-------	------	------

MPコース	若干人	グループ6(芸術)以外から1科目 (HL成績評価4以上)
-------	-----	---------------------------------

選抜方法(2015年入試)

書類審査

スケジュール(2015年入試)

2014年11月	学生募集要項発表
2015年 1月20日～22日	出願期間
3月20日	条件付合格発表
8月28日	IB資格証書提出期限
8月28日	入学手続期限
10月 1日	入学

IB入試(2015年4月入学) 今年の例選抜方法

Japanese A を履修し、成績評価**4以上**

文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部、薬学部
環境理工学部、マッチングプログラムコース → **書類審査**

教育学部、医学部、歯学部 → **書類審査、面接**

スケジュール

2014年 8月 1日～5日	出願期間
8月18日	面接(歯学部)
8月19日	面接(教育学部、医学部)
8月29日	条件付合格者発表
2015年2月18日	入学手続

学部学科専攻等の指定科目 その1

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
理学部	数学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)
	物理学科		数学、物理から1科目(HL成績評価4以上)
	化学科		数学、物理、化学から1科目(HL成績評価4以上)
	生物学科		数学、物理、化学、生物から1科目(HL成績評価4以上)
	地球科学科		物理、化学から1科目(HL成績評価4以上)
医学部	保健学科	若干人	物理、化学、生物から1科目 (HLないしSLを履修、成績評価は問わない)
	看護学		
	放射線技術科学 臨床技術科学		
工学部	機械システム系学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)及び 物理(HL成績評価4以上またはSL成績評価4以上)
	電気通信系学科		
	情報系学科		数学(HL成績評価4以上)
	化学生命系学科		化学(HL成績評価4以上)及び数学(HL成績評価4以上またはSL成績評価4以上)

学部学科専攻等の指定科目 その2

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
環境理工学部	環境数理学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)
	環境デザイン工学科		数学及び物理、化学、生物から1科目(どちらか1科目はHL成績評価4以上。もう一方はSL成績評価5以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境管理工学科		数学及び物理、化学、生物から1科目(どちらか1科目はHL成績評価4以上。もう一方はSL成績評価4以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境物質工学科		数学(SL成績評価4以上又はHL(成績評価は問わない))及び物理か化学のどちらかHL成績評価4以上
農学部	総合農業科学科	若干人	物理、化学、生物から2科目(HL又はSLで履修。成績評価は問わない)
マッチングプログラムコース		若干人	グループ6(芸術)以外から1科目(HL成績評価4以上)

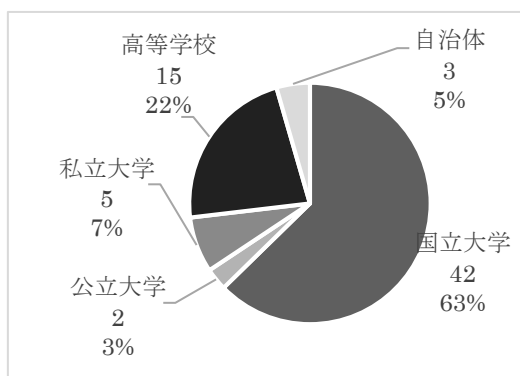
学部学科専攻等の指定科目 その3

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
文学部	人文学科	若干人	日本語A(HL4以上)
教育学部	学校教育教員養成課程	若干人	1科目HL4以上
	養護教諭養成課程	若干人	グループ6以外から1科目HL4以上
法学部	法学科(昼間コース)	若干人	英語HL4以上 グループ3から1科目HLないしSL4以上
経済学部	経済学科(昼間コース)	若干人	グループ3から1科目HL4以上または数学HL4以上
医学部	医学科	3人	生物、物理、化学から2科目および数学(うち1科目はHL4以上、他の2科目はSL5以上かHL3以上) 合計39点以上(45点満点)
薬学部	創薬科学科	若干人	物理、生物(どちらかをHL4以上) 化学(HL4以上) 数学(SL5以上か又はHLで履修)
	薬学科		

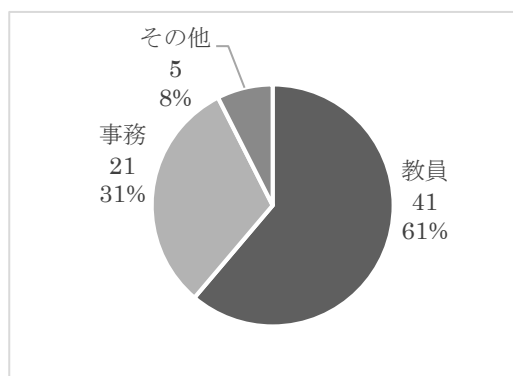
大学教育再生加速プログラム採択事業キックオフシンポジウム アンケート集計結果

日 時 平成26年10月30日（木） 13時30分～17時
 場 所 岡山大学五十周年記念館
 参加者数 107名（学外53名 学内54名）
 アンケート集計枚数 67枚

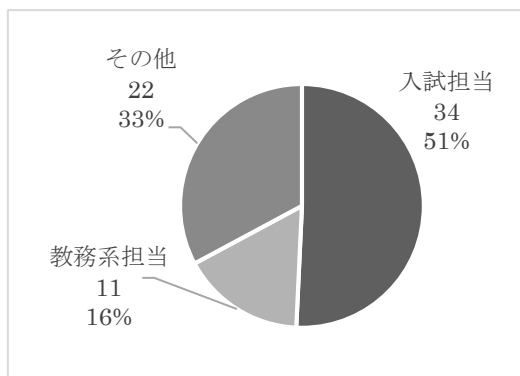
問1 所属をご回答ください



問2 職種をご回答ください

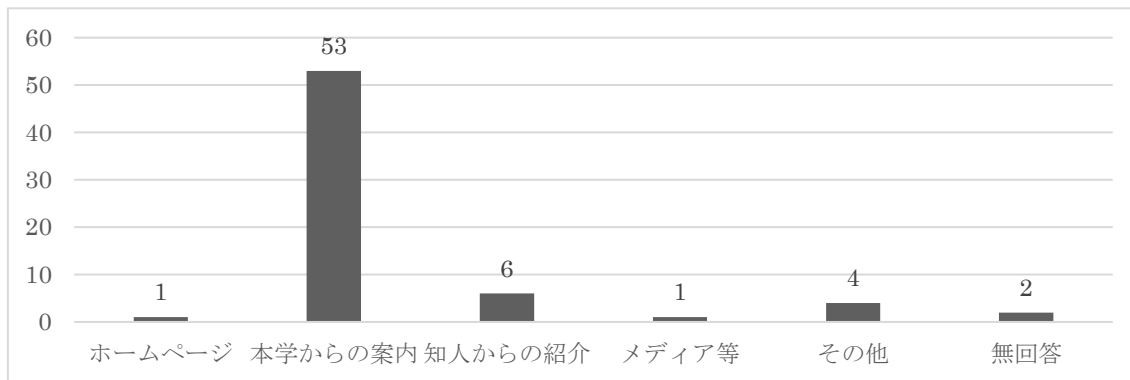


問3 役職（ご担当のお仕事）をご回答ください。



*入試担当は入試関係委員等を含む。
 *教務系担当は教務関係委員等を含む。

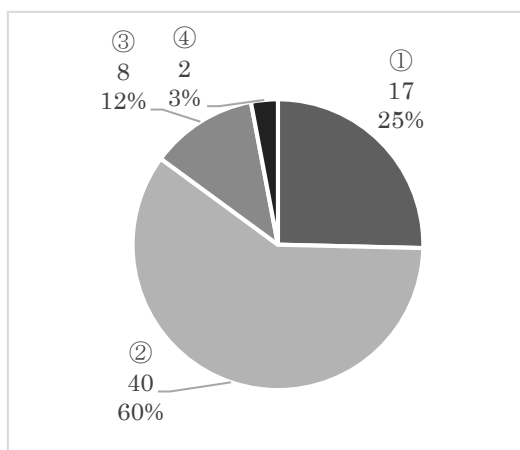
問4 本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問5 本日のシンポジウムはいかがだったでしょうか。それぞれについてご回答ください。

■入試改革について

岡山大学理事・副学長(教育担当) 許 南浩

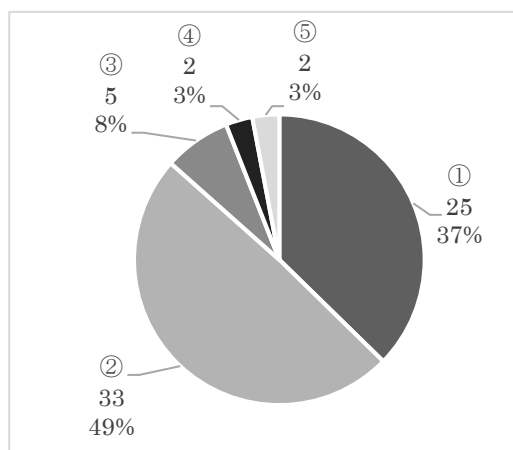


①非常に参考になった ②参考になった
③どちらでもない ④無回答

■海外 IB 校が日本の大学に期待すること

International School of Paris

国際バカロレア日本語学科教師・同試験官 石村 清則



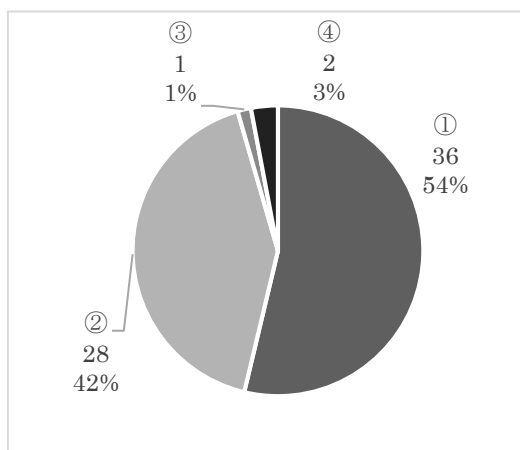
①非常に参考になった ②参考になった
③どちらでもない ④あまり参考にならなかった
⑤無回答

■世界で生きるチカラ

ー国際バカロレアが子供たちを強くするー

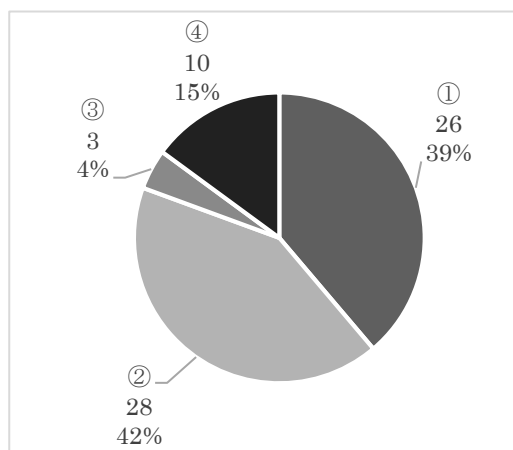
国際バカロレア機構

アジア太平洋地区理事 坪谷ニューエル郁子



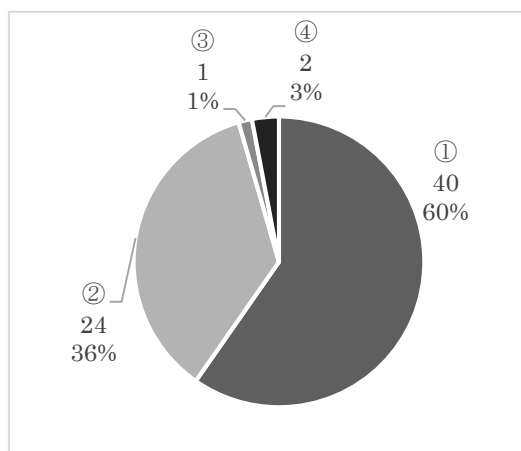
①非常に参考になった ②参考になった
③あまり参考にならなかった ④無回答

■パネルディスカッション



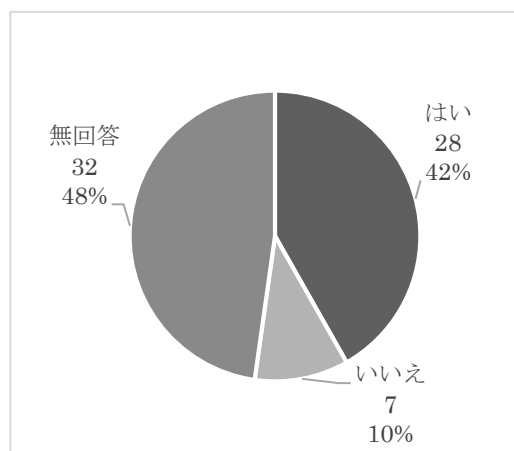
①非常に参考になった ②参考になった
③どちらでもない ④無回答

問 6 全体の運営はいかがだったでしょうか。



①良かった ②普通 ③あまり良くなかった ④無回答

問 7 大学関係者の方に伺います。貴学への IB 入試を検討していますか。



問 8 高等学校関係者の方に伺います。岡山大学の IB 入試、入試改革についてご意見があればご記入ください。

- ・ 大学入学者選抜における IB の活用は理解しますが、入学後の一般選抜との関係性や入学後の授業等を含めた改革など、学内での改革がよく見えてこないのが気になります。
- ・ 先駆的な入試に期待しています。しかし、どのような学生を求めるよう変化していくのか不安でもあります。
- ・ IB 入試の医学部の募集要件で、現在、出願時にすでに IB ディプロマを取得していることとなっておりますが、今後は取得見込の生徒でも出願できるようになりますか？
- ・ 今の所、全然考えていない。
- ・ 改革の方向性については時代の流れに沿っていると考えている。IB 入試を含め県教委や校長会も啓蒙してもらいたい。公立は上層部が理解し、意識改革しないと、なかなか動けませんので。
- ・ この入試で入学した生徒が学部でどんな存在の学生になるのか興味あります。
- ・ 今後大学入試が激変する状況の中、逐一最新の情報をしっかりと流して欲しい。高校現場はそれだけが頼りで、高校も変わろうとしています。
- ・ 全学部へ IB 入試を採用している点が画期的だと感じました。石村先生のお話にもありましたように(全学部へ)面接を厳しく実施するのも良いアイデアだと思います。
- ・ 高校に対して今後きめ細かな情報提供を(インターネットも含めて)お願いしたいと思います。
- ・ 情報へのアクセスをまとめることで、容易になる事を望みます。

問9 今後、岡山大学の入試制度に関して期待すること等その他ご意見があればご記入ください。

- ・ こうした広報を兼ねた催しを積極的に行ってもらいたい。
- ・ 様々な入試制度を行うことによって、様々な力を持った生徒が募集できると思います。
- ・ 多様な人材を多様な入試で、という考え方に納得感はあるのですが、その受入体制（→大学側の教育をどう変えるのか？“大学教育の付加価値”の具体化）はどうするのかを今後、打出して欲しいと思います。（例えば、バカロレア教育から見た“大学教育のあるべき姿”）
- ・ 今後もぜひ色々御教授いただきたいです。ありがとうございました。
- ・ 今回は、時機をえたシンポジウムを開催いただきありがとうございました。大変、参考になりました。
- ・ 本日は勉強になるシンポジウムを開いて下さりありがとうございました。高大接続の現在の課題や、新しい国際バカロレア DP について知識を深めることが出来ました。文科省の方からの旬な達成度テストについて学べたので良かったです。
- ・ どう多面的評価をするか難しいことではあると思います。資質・能力を見極める、測ることも大切だと感じました。
- ・ IB 卒生が大学卒業後、社会で価値を認められる様に大学教育に期待しています。

H26年度海外IB校訪問報告書

国名	市名	訪問学校名	訪問日	訪問時間	訪問者 部署名	訪問者氏名	訪問先 担当者役職	訪問理由	配布資料	訪問時の状況及び内容
ベトナム	ハノイ	UNIS (United Nations International School) ※説明会実施場所は訪問先担当者である 日本語教師の自宅	2014年11月11日	15:00～16:00	アドミッションセンター	田中 克己	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	日本語教師の自宅で、10、11年生の保護者8名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 11年生の男子生徒は医学科を志望している。
ベトナム	ハノイ	UNIS (United Nations International School)	2014年11月12日	12:45～13:20	アドミッションセンター	田中 克己	カレッジカウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	校内的カレッジカウンセラーの部屋でコンピュータとモニターにて10、11、12年生7名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。
ベトナム	ハノイ	HIS (Hanoi International School)	2014年11月13日	10:30～11:30	アドミッションセンター	田中 克己	校長	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	校長と面談。 12年生7名を対象に本学説明会を実施。本学の概要及びIB入試の説明を行った。 数学の授業を見学。 11年生の女子生徒は歯学部を志望している。
イギリス	ロンドン	International School of London	2014年11月21日	13:00～14:00	アドミッションセンター 農学部 MPコース アドミッションセンター	飯塚 誠也 森永 邦久 稲垣 善茂 吉田 紀子	Deputy principal兼 IBDPコーディネーター 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 農学部パンフレット アンケート	IBDPコーディネーターと面談。 日本語教師の案内で、11年生7名、12年生4名の計11名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、農学部及びMPコースの紹介を行った。 参加生徒及び教員とのフリートーク。 12年生4名の進路はまだ未定。
イギリス	ロンドン	Dwight School London	2014年11月24日	14:10～17:00	アドミッションセンター 農学部 MPコース アドミッションセンター	飯塚 誠也 森永 邦久 稲垣 善茂 吉田 紀子	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 農学部パンフレット アンケート	日本語講師の方2名と事前面談。 学校施設の見学。 9～12年生17名、13年生3名の計20名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、農学部及びMPコースの紹介を行った。 参加生徒及び教員とのフリートーク。 13年生の内1名は関西に進学したいと考えている。 MPコース、医学系、文系に興味を持っている生徒が多い。 本学を視野に入れている生徒は今のところいないが、日本に帰りたいと思っている生徒が多数いる。
オランダ	アムステルダム	ISA (The International School of Amsterdam)	2014年11月24日	15:00～18:30	教育担当理事副学長 アドミッションセンター アドミッションセンター アドミッションセンター 工学部 法学部 文学部 文学部	許 南浩 栗原 考次 田中 克己 佐竹 恭介 阿部 匡伸 村田 健介 中谷 文美 延味 能都	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 医学部パンフレット 環境理工学部パンフレット 工学部パンフレット 法学部パンフレット 文学部パンフレット アンケート	学校施設の見学及び、授業の見学。 11年生6名、12年生5名、他学年4名の計15名の生徒及び、保護者23名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 各学部の担当者が、医学部、環境理工学部、工学部、法学部、文学部の紹介をそれぞれ行った。 模擬授業及び模擬面接、懇談会を実施。 12年生の女子生徒は本学の理学部化学科を志望している。
ドイツ	デュッセルドルフ	ISD (International School of Dusseldorf)	2014年11月25日	15:00～18:00	教育担当理事副学長 アドミッションセンター 工学部 文学部	許 南浩 佐竹 恭介 阿部 匡伸 中谷 文美	日本語教師 進路カウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 医学部パンフレット 工学部パンフレット 文学部パンフレット	日本語教師、進路カウンセラーと面談。 進路カウンセラーにGMPコースを紹介した。 11、12年生の計6名の生徒及び、保護者7名を対象に本学説明会を実施。 許理事の挨拶、本学の概要及びIB入試の説明を行った。 各学部の担当者が、医学部、工学部、文学部、MPコースの紹介をそれぞれ行った。 個人面談を実施。 12年生の男子生徒は本学を志望する可能性がある。 12年生の女子生徒は本学を志望している。
フランス	パリ	ISP (International School of Paris)	2014年11月26日	17:00～19:00	アドミッションセンター アドミッションセンター 法学部 文学部	栗原 考次 田中 克己 村田 健介 延味 能都	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット アンケート	生徒6名、保護者8名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 各学部の担当者が、理学部、環境理工学部、法学部、文学部、GMPコースの紹介をそれぞれ行った。 個別相談を実施。 MPコースや医学科に興味を持っている生徒が多い。
ドイツ	フランクフルト	ISF (International School Frankfurt)	2014年11月26日	18:00～21:30	アドミッションセンター 工学部	佐竹 恭介 阿部 匡伸	校長 進路カウンセラー 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 工学部パンフレット	校長先生、進路カウンセラー、日本語教師と懇談。 生徒2名、保護者6名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、工学部及び岡山市の紹介を行った。 参加者とフリートーク。 12年生の女子生徒は本学農学部を希望している。
ドイツ	ミュンヘン	BIS (Bavarian International School)	2014年11月27日	13:00～15:30	教育担当理事副学長 アドミッションセンター 工学部	許 南浩 佐竹 恭介 阿部 匡伸	校長	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 工学部パンフレット アンケート	校長先生と面談。 生徒7名、保護者3名を対象にランチタイム説明会を実施。 許理事の挨拶、本学の概要及びIB入試の説明を行った。 各学部の担当者が、医学部、工学部の紹介をそれぞれ行い、最後に岡山市の紹介を行った。 参加保護者と懇談。 校内施設の見学。 2014年度、新規に訪問した学校である。

H26年度海外IB校訪問報告書

国名	市名	訪問学校名	訪問日	訪問時間	訪問者 部署名	訪問者氏名	訪問先 担当者役職	訪問理由	配布資料	訪問時の状況及び内容
ベルギー	ブリュッセル	ISB (International School of Brussels)	2014年11月27日	13:00～15:30	アドミッションセンター アドミッションセンター 法学部 文学部	栗原 考次 田中 克己 村田 健介 延味 能都	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット 理学部パンフレット 環境理工学部パンフレット 法学部パンフレット 文学部パンフレット アンケート	本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 各学部の担当者が、理学部、環境理工学部、法学部、文学部、MPコースの紹介をそれぞれ行った。
フィリピン	マニラ	International School Manila	2014年11月28日	11:35～12:40	アドミッションセンター	飯塚 誠也	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット アンケート	12年生2名、他学年の生徒8名、保護者8名を対象に本学IB入試説明会を実施。 保護者5名に日本の状況や、バカロレア以外の一般入試、AO入試、推薦入試について説明を行った。 2014年度、新規に訪問した学校である。 MPコースやIH(International House)に興味がある生徒もいる。 参加者は基本的に日本の大学を考えている。
中国	上海	WISS (Western International School of Shanghai :上海西華国際学校)	2014年12月4日	17:00～18:00	アドミッションセンター	田中 克己	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	生徒7名を対象に本学IB入試説明会を実施。 2014年度、新規に訪問した学校である。 本学に興味を持っている生徒がいる。
中国	蘇州	SSIS (Suzhou Singapore International School :蘇州シンガポール国際学校)	2014年12月5日	12:30～14:00	アドミッションセンター	田中 克己	カレッジカウンセラー 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	カレッジカウンセラーと面談し、本学IB入試の概要を説明した。 カレッジカウンセラー、日本語教師、12年生4名を対象に本学IB入試説明会を実施。 説明会後、質疑応答。 2014年度、新規に訪問した学校である。
タイ	バンコク	RIS (Ruamrudee International School)	2014年12月9日	12:30～14:30	アドミッションセンター	飯塚 誠也	日本語教師 Japanese Liaison	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット 帰国子女入試募集要項 経済学部パンフレット スクールアプリナビ広告 アンケート	8、9年生の保護者2名に本学IB入試の説明。 9年生2名、10年生1名、12年生2名の計5名の生徒、保護者2名を対象に本学概要及び、IB入試の説明を行った。 保護者、Japanese LiaisonにMPコースのAO入試を説明し、certificateへの対応などの情報交換を行った。 12年生の女子生徒は、経済学部(商学部)希望で、進路は未定。
シンガポール	シンガポール	ISS International School	2014年12月10日	14:15～17:30	アドミッションセンター 医学部	佐竹 恭介 大塚 愛二	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	10年生5名の国語の授業を見学。 生徒7名、保護者3名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、医学部の紹介を行った。 参加者とフリートーク。 日本語教師と懇談。 12年生に本学への秋入学志願者が1名、4月入学の医学部志願が1名いる。
シンガポール	シンガポール	UWCSEA (United World College of South East Asia)	2014年12月11日	9:50～12:40	アドミッションセンター 医学部	佐竹 恭介 大塚 愛二	大学アドバイザー兼 歴史教師兼TOK担当 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット アンケート	生徒6名に本学の概要及びIB入試の説明。 大学アドバイザーの案内で、生物、化学、日本語の授業を見学。 校内施設の見学。 H26年度に本学医学部に合格者を出した学校である。
タイ	バンコク	NIST International School	2014年12月12日	10:15～12:00	アドミッションセンター アドミッションセンター	田中 克己 飯塚 誠也	スクールカウンセラー 保護者	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	スクールカウンセラーとフリートーク。 12年生1名、保護者6名を対象に本学IB入試説明会を実施。 参加者とフリートーク。
タイ	バンコク	International School Bangkok (ISB)	2015年2月17日	9:30～11:30	アドミッションセンター 学務企画課	タマシ カルメン 岩瀬 大介	高校カウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	高校カウンセラーとIB校について意見交換を行い、生徒の進学についてディスカッションした。 生徒7名、日本語教師1名、保護者1名、高校カウンセラー1名を対象に本学説明会を実施。 本学のIB入試について説明を行った。 2014年度、新規に訪問した学校である。
タイ	バンコク	International School Eastern Seaboard (ISE)	2015年2月18日	10:15～13:30	アドミッションセンター 学務企画課	タマシ カルメン 岩瀬 大介	日本語教師	カレッジフェア 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	学校施設の見学。 カレッジフェアにて本学説明会を実施。 ISEの日本人学生、タイ高校の学生、ISEの校長、日本語教師1名、保護者2名を対象に本学のIB入試について説明を行った。 学生の参加者は計50名程度であった。 日本語教師とIB入試及び「日本語A」の授業について意見交換を行った。

H26年度海外IB校訪問報告書

国名	市名	訪問学校名	訪問日	訪問時間	訪問者 部署名	訪問者氏名	訪問先 担当者役職	訪問理由	配布資料	訪問時の状況及び内容
アメリカ	ニューヨーク	United Nations International School (UNIS)	2015年2月20日	10:30～13:00	アドミッションセンター	田中 克己	Modern Language Department カレッジカウンセリングディレクター 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター LINE@広告 スクールアプリ広告	相手先担当者に本学の概要及び IB入試について説明を行った。 10年生の「日本語A」、11年生の「日本語B」の授業を見学。 授業見学させていただいた日本語教師の考えでは、日本語教育は現在のIBの日本語授業のように文学を読み込ませるよりも、言語学的に構文を教える方がTOKにも通じIB教育としては望ましいとのことだった。 日本語Bを受けていたアメリカ人女子生徒は2015年8月に日本の企業へのインターンシップで来日予定。
ルーマニア	ブカレスト	The European School of Bucharest	2015年2月27日	10:00～11:30	アドミッションセンター	タマシ カルメン	IBDPコーディネーター	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	IBDPコーディネーターと面談し、ルーマニアにおけるIBについて意見交換を行った。 ルーマニアのIB校卒業生は主にイギリスの大学へ進学する傾向がある。 しかし、日本と日本文化に興味があり、7年生と8年生が日本語の授業を受けている。
スイス	ヴァーラー・シュル・オロン	College Alpin International Beau Soleil	2015年3月1日	10:30～12:30	アドミッションセンター	田中 克己	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター	校内施設の見学。 11年生2名、10年生4名、8年生1名の計7名、日本語教師1名を対象に、本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試について説明、質疑応答を行った。 2014年度、新規に訪問した学校である。 スイスのインターナショナルスクールでは英語とフランス語が公用語として使われている。 したがって、日本人でも日本語を選択せず、「English A」と「French B」を選択する生徒もいる。
スイス	ローザンヌ	Le College Champittet de Pully	2015年3月2日	10:00～13:00	アドミッションセンター アドミッションセンター	栗原 考次 田中 克己	校長 副校長 音楽教師 日本語教師 アドミッションセンターマネージャー	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 国際バカロレア入試募集要項 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター	校長、副校長と面談。 地理学、歴史、芸術、物理学等の授業を見学。校内施設の見学。 音楽担当教師及び9年生の日本人3名と面談。 2014年度、新規に訪問した学校である。 教育課程は、スイスの教育課程、フランスバカロレアに加えて国際バカロレアがある。 日本語授業はまだ開講されていないが、9年生の日本人が3名おり近々開講される予定である。 基本的に生徒は、フランス語と 英語のバイリンガルである。 本学の医学部を志望している生徒がいる。
イタリア	ミラノ	International School of Milan	2015年3月3日	14:00～17:00	アドミッションセンター	タマシ カルメン	日本語教師 Secondary Dean MYPコーディネーター	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	学校施設の見学。 生徒5名、保護者6名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試について説明、質疑応答を行った。 参加者は本学に関心を示し、特に医学部に興味があるようであった。
スイス	ジュネーブ	ジュネーブ日本語補習学校	2015年3月3日	16:00～16:30	アドミッションセンター アドミッションセンター	栗原 考次 田中 克己	校長	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター LINE@広告 スクールアプリ広告	校長と面談。 教室の見学。 日本人在籍者の状況調査を実施。 日本人高校生13名が在籍しており、毎週金曜日の夜に高校生対象の国語補習授業がある。
イギリス	ロンドン	ACS International School	2015年3月4日	10:00～11:10	アドミッションセンター	タマシ カルメン	カレッジカウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	カレッジカウンセラー2名と面談し、IBについて意見交換を行った。 10年生のアメリカ出身の女生徒1名に本学の概要及びIB入試の説明を行った。 この女生徒は空手を習っており、日本の大学に興味を示していた。 ルーマニア同様、ACS Cobhamの卒業生もイギリスの大学へ進学する傾向にある。 フルティプロマだけでなく、certificateのみの取得が可能である。
スイス	グシュタード	Le Rossy (ル・ロゼ学院)	2015年3月4日	15:30～17:00	アドミッションセンター	田中 克己	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット ポスター	11年生2名、10年生1名、日本語教師1名の計4名を対象に、本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、質疑応答を行った。 2014年度、新規に訪問した学校である。 全寮制の学校で、夏はRolle(ロール)の校舎と寮で生活するが、冬はGstaad(グシュタード)というスキーリゾート地にある校舎と寮で過ごす。全寮制の学校で学んでいる日本人生徒は単身で来ているため、日本の帰国子女には該当しない。 スイスの学生(国籍は様々)は、日本に大変興味があり、日本の大学への関心も高いようである。
インドネシア	ジャカルタ	Jakarta International School	2015年3月17日	11:00～12:50	アドミッションセンター アドミッションセンター	田中 克己 タマシ カルメン	高校カウンセラー 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	高校カウンセラーと面談。 本学の概要及びIB入試の説明を行い、JIS在校生の進学方向について説明を受けた。 また、IBフルティプロマとcertificate、さらにTOKについて意見交換を行った。 ブース形式で本学説明会を実施。 10年生向けの日本語授業を見学。 参加生徒の国籍は、韓国、インド、中国、アメリカ、オーストラリア、インドネシアと様々で、各1名ずつ日本語を履修している。授業の中で、生徒達の進学と日本について話をした。
インドネシア	ジャカルタ	ジャカルタ日本人学校	2015年3月17日	13:30～15:00	アドミッションセンター アドミッションセンター	田中 克己 タマシ カルメン	教諭	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	日本人生徒の進路等の状況調査を実施。 校内施設の見学。 在籍生徒数は小学部・中学部合わせて1200人で、その内の8～9割は日本の公立高校に戻る生徒が多い。 英語力が乏しいため、インターナショナルスクールに進学する生徒は少ない。

H26年度海外IB校訪問報告書

国名	市名	訪問学校名	訪問日	訪問時間	訪問者 部署名	訪問者氏名	訪問先 担当者役職	訪問理由	配布資料	訪問時の状況及び内容
中国	香港	ESF centre (English Schools Foundation)	2015年3月17日	17:00～18:30	アドミッションセンター MPコース	飯塚 誠也 上田 均	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	生徒及び保護者10組を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 ESF centreには全部で11校の学校があり、住んでいる地域で学区が決まっている。 香港は大学が少ないので、日本は選択肢の一つになる。 しかし、生徒は日本の中でも東京に関心が向いている。
中国	香港	Island School	2015年3月18日	9:10～10:50	アドミッションセンター	飯塚 誠也	日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター	Japanese Bの授業を見学。 日本語教師に本学の概要及びIB入試の説明を行った。 本学医学部の教授による手術を受けた9年生の男子生徒は、岡山大学を志望している。 Japanese Bを受けている生徒は、自分の意見を日本語で発言するのはまったく問題ないが、漢字が弱い。 しかし、中にはEE(課題論文)を日本語で書く生徒が4名いる。
オーストラリア	メルボルン	The Kilmore International School	2015年3月24日		アドミッションセンター	佐竹 恭介		入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア資料 グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター アンケート LINE@広告 スクールアプリ広告	年度内訪問予定

H26年度国内IB校訪問報告書

都府県名	市/区名	訪問学校名	訪問日	訪問時間	訪問者 部署名	訪問者氏名	訪問先 担当者役職	訪問理由	配布資料	訪問時の状況及び内容
東京	世田谷	St. Mary's International School (セント・メリーズインターナショナルスクール)	2014年10月21日	10:00～11:00	アドミッションセンター	田中 克己	IBコーディネーター	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	IBコーディネーターと面談し、本学IB入試の説明を行った。 校内施設を見学。
愛知	名古屋	名古屋国際学園	2014年11月25日	10:30～15:00	アドミッションセンター MPコース	上田 一郎 阿保 達彦	校長 副校長 IBDPコーディネーター兼生物HL教師 スクールカウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 大学案内(英語版) 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット	生徒2名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、MPコースの紹介を行った。 個人面談を実施。 「日本語A HL」、「生物HL」の授業を見学。 参加生徒2名はMPコースに興味があるが、本学に出願するかは未定。
福岡	福岡	福岡インターナショナルスクール	2014年11月28日	12:15～14:00	アドミッションセンター	上田 一郎	IBDPコーディネーター	入試説明 調査研究	大学案内 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット	IBDPコーディネーターと面談。 10年生5名、11年生5名、12年生5名の計15名を対象に本学IB入試の説明を行った。 説明会後、質疑応答。 本学に興味を持っている生徒がいる。
広島	広島	広島インターナショナルスクール	2014年12月5日	8:45～11:00	アドミッションセンター	上田 一郎	校長 日本語教師 DPワークショップリーダー	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット	校長と面談。 12年生10名に本学の概要及びIB入試の説明を行った。 「日本語A」の授業を見学。 本学に興味を持っている生徒がいる。
広島	広島	AICJ中学校・高等学校	2014年12月15日	11:30～13:00	アドミッションセンター 教育学部	上田 一郎 桑原 敏典	IBコーディネーター 日本語教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット 教育学部パンフレット	「化学SL」の授業を見学。 10年生3名、11年生3名、12年生2名の計8名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明、教育学部の紹介を行った。 12年生の2名(保健、教育)は2015年4月入学入試で本学への条件付合格者である。
大阪	箕面	関西学院大阪インターナショナルスクール	2015年1月21日	11:20～14:30	アドミッションセンター アドミッションセンター	上田 一郎 和田 志織	カウンセラー	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 MPコースパンフレット グローバル人材育成特別コースパンフレット	カウンセラーと面談し、本学の概要及びIB入試の説明を行った。 11年生の女子生徒に本学の概要及びIB入試の説明、MPコースの紹介を行った。 この女子生徒は日本の大学への進学を考えており、心理学に興味がある。
東京	町田	玉川学園中学部・高等部	2015年1月23日	12:00～14:15	教育担当理事副学 長 アドミッションセンター	許 南浩 上田 一郎	初等中等教育担当理事 学園教学部部長兼 学園国際交流センター長 学園教学部次長	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット	訪問先担当者と面談。 本学説明会を実施。許理事の挨拶。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。 11年生の「日本語A」の授業を見学。
福岡	筑紫野	リンデンホールスクール中高校部	2015年1月27日	15:10～16:30	アドミッションセンター 理学部	上田 一郎 富岡 憲治	副校長 教頭 教務主任 進路指導	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット 理学部パンフレット	副校長と面談。校内施設の見学。 訪問先担当者に本学の概要及びIB入試の説明、理学部の紹介を行った。 医学科志望の生徒の保護者から質問があり、11月のIBスコア見込み点では来年度の4月入試は受験できない点を残念がっていた。
群馬	太田	ぐんま国際アカデミー中高等部	2015年2月13日	11:30～12:20	アドミッションセンター	上田 一郎	文学主任 社会科教師	入試説明 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(4月) グローバル人材育成特別コースパンフレット アンケート	文学主任と面談。 11年生21名を対象に本学説明会を実施。 本学の概要及びIB入試の説明を行った。
東京	江東	Kインターナショナルスクール	2015年3月21日	13:00～16:00	アドミッションセンター	上田 一郎	カレッジカウンセラー	カレッジフェア 調査研究	大学案内 本学全体説明資料 国際バカロレア入試説明資料 国際バカロレア入試募集要項(10月) グローバル人材育成特別コースパンフレット MPコースパンフレット ポスター LINE@アプリ広告 スクールアプリナビ広告	ブース形式で本学説明会を実施。 生徒10名を対象に本学の概要及びIB入試の説明を行った。 参加生徒10名のうち、7名(11年生)が医学部医学科志望である。

IB ランチオンミーティング報告

日 時：2014 年 12 月 28 日（日）12:00-15:00

場 所：岡山駅西口「Ryoutei」

参加者：International School of Amsterdam

日本語教師 日本人コミュニティー・リエゾン 橋本八重子氏

アドミッションセンター副センター長 田中克己

マッチングプログラムコース教育部長 上田均

附属図書館副館長 田原誠

アドミッションセンター特任教授 佐竹恭介

アドミッションセンター事務職員 吉田紀子

内容：

- 今年の International School of Amsterdam 12 年生 5 人の進学先は大阪大学、国際基督教大学、上智大学とのこと。在校生は 11 年生 4 名、10 年生 5 名、9 年生 8 名となっている。9 年生も 8 名在籍していることなので、来年以降も岡山大学には来校して欲しい。
- 橋本先生から岡山大学への提案：
岡山大学主催で Japanese A と TOK の IB セッションを開いてはどうか。現在、パリの石村清則先生が主催する「日本語教師の会」が毎年 7 月に東京代々木で開かれているが、IBO 公認のセッションではない。これを岡山大学が主催で開いては、という提案。
ただし、IBO の公認を取ると参加料が高くなるデメリットはあるが、出席する教員は自分の学校から補助が出るというメリットもある。
- 例年、アムステルダムでの大学説明会は 10 月末から 11 月にかけて行われる。昨年は岡山大学が最後だった。来年は少し開催を早めるか。
- IB 入試の面接試験について。ケンブリッジやオックスフォードは 2 次試験で面接を課すところはあるが、そのレベルの大学のみ。現実的ではない。

報告者：田中克己

IB JAPANESE LANGUAGE A: Literature

このコースは日本語を第一言語とし、読む、書くの基礎力のある生徒を対象としています。

文学作品を通して、人間とはなにか、人生とはなにか、時代、場所は違っても普遍的なものは存在するのかなどを考えます。スキルとしては、文学作品の分析、鑑賞の仕方（critical reading）をさらに深く学び、読解力を発展させます。また、解説文〔コメンタリー〕、小論文〔エッセイ〕の書き方（critical writing）を習得し、読解したものをいかに表現するか、フォーマルな書き方も身につけます。表現力は書くだけでなく、話す分野でも磨かれます。

読む作品は、ほぼ全ジャンルを網羅し、4つの領域（読む、書く、聴く、話す）に加えて、「観る（viewing）」もあり、原作と映像化されたものをイメージ、構成などで比較します。

コース概要（syllabus）と評価（assessment）の仕方

	コースの学習内容と目標	作品数		評価の仕方【外部評価か内部評価か】	割合
		HL	SL		
パート1	Works in translation [翻訳物－ブックリストより] ・『血の婚礼』（G. ロルカ） ・『異邦人』（カミュ）HL ・『イワン・デニーソヴィッチの1日』（ソルジェニツイン）	3	2	Written assignment 【外部】 <u>HL/SL 共通</u> (1) reflective statement 600-800 字（原稿用紙 1.5～2 枚） (2) エッセイ 2400-3000 字（原稿用紙 6～7.5 枚）	25%
パート2	Detailed study [精読－ブックリストより。違ったジャンルで。ただし、HL では詩は必須] ・『近代能楽集』（三島由紀夫）戯曲 ・『おくのほそ道』（松尾芭蕉）紀行文 ・『三好達治詩集』HL 詩歌	3	2	Individual oral commentary 【内部】 <u>HL 20 分</u> ① 詩のコメンタリー 10 分 ② その他の作品一つに関して先生とディスカッション 10 分 <u>SL 10 分</u> 1 作品に関してコメンタリー	15%
パート3	Literary genres [一つのジャンルで。ブックリストより] ・『野火』（大岡昇平）HL ・『砂の女』（安部公房） ・『人間失格』（太宰治） ・『こころ』（夏目漱石）	4	3	5 月の筆記試験で【外部】 ● Paper 2（エッセイ） パート3から最低2作品を用いて <u>HL2 時間、SL1.5 時間</u>	25%
				● Paper 1（コメンタリー） 未見の作品から（詩、散文どちらか一つ選択） <u>HL2 時間、SL1.5 時間</u> 注：SL は Guiding question 付き	20%

	コースの学習内容と目標	作品数		評価の仕方【外部評価か内部評価か】	割合
		HL	SL		
パート4	Options [学校の自由選択] 『キッチン』（吉本ばなな） 『GO』（金成一紀） 『ライ麦畑でつかまえて』（サリンジャー）	3	3	Individual oral presentation【内部】 <u>HL/SL 共通</u> 1 作品を選び、オーラル・プレゼンテーション（10-15 分） 注： パート2を中心に外部の試験官によって調整される。	15%

なお、作品は 2014－2016 用です。

評価観点

1. 作品内容理解

- －作品個々に関する知識、内容理解、また、作品間の関連性把握を説明できるか
- －文化が文学にどう表されているか指摘できるか
- －作品の文脈上の意味を説明できるか
- －的確な例を挙げて論証、論述ができるか

2. 分析、統合、評価

- －言語、構成、テクニク、文体を分析し、その効果を指摘できるか
- －授業で学習した作品で、また初見のもので、独自な見解をいれて解説できるか
- －作品に使われているテクニクの効果、また文体と意味の関連性を深く追求できるか（HL のみ）

3. 目的に合った言語の使用

- －筆記で、また口頭で目的にあった言葉遣いで、考えを明快かつ流暢に表現できるか
- －的確な文学用語を使え、また概念を説明できるか
- －口頭、また筆記で理路整然と論が発展できるか
- －一貫して詳細なコメンタリー（解説文）が書けるか（HL のみ）

Workshop Agenda* – Theory of Knowledge
IBDP Category 1 workshop
International School Prague, Czech Republic 19-21 Feb 2015
Workshop leader: Andrew Watson

Day 1 – Thursday 19th February 2015

0930 - 0945	Welcome – IB philosophy and introductions to Workshop Leaders
0945 - 1115	Subject session 1 (1.5h): Theory of Knowledge (ToK), The IB Mission in Action • Introductions, workshop expectations • Education for a better world: The IB
1115 - 1135	Refreshment Break
1135 - 1305	Subject session 2 (1.5h): “Every Day is a ToK day” -from the general to the specific • International Mindedness and the “real world” • Knowledge Claims and Knowledge Questions
1305 - 1400	Lunch
1400 - 1530	Subject session 3 (1.5h): The Pedagogy of ToK • Sharing best practice in the classroom • The core business of ToK: teaching and learning to think
1530 – 1550	Refreshment Break
1550 – 1720	Subject session 4 (1.5h): Looking with ToK eyes • The IB Diploma Core and creating a continuum • ToK through the Diploma subject areas
1730	Transport back to Savic Hotel

Day 2 – Friday February 20th

0900 – 1030	Subject session 5 (1.5h): Moving towards assessment • Personal & Shared knowledge • The knowledge framework
1030 – 1050	Refreshment Break
1050 – 1220	Subject session 6 (1.5h): Assessment • Planning the presentation • Assessing the presentation
1220 – 1315	Lunch
1315 – 1445	Subject session 7 (1.5h): Assessment • Planning the Essay • Assessing the Essay
1445 – 1505	Refreshment Break
1505 – 1635	Subject session 8 (1.5h): Planning your ToK programme • The role of the ToK teacher/Coordinator • Working with Colleagues
1645	Transport to back to Savic Hotel Optional extra – City Tour & Meal

Day 3 – Saturday February 21st

0900 – 1030	Subject session 9 (1.5h): Sharing best practice • Building up ToK resources • Academic Honesty
1030 – 1050	Refreshment Break
1050 – 1220	Subject session 10 (1.5h) • Matters arising • Reflections
1220	Workshop ends. Participants depart.

**subject to change*

Material participants should bring to this workshop:

Participants are requested to bring the following:

- Theory of Knowledge Guide (first exams 2015): hard or soft copy
- An example of international mindedness (any medium) to share
- One or more “Real World” issues (any medium) to explore through the lens of ToK
- ToK course outlines (if applicable)
- Other resources and or teaching activities to share that you think are “ToK” – (any medium)

「知識の理論」ミニ・セミナー

TOK : Theory of Knowledge

～これからの社会を生き抜くための思考法の養成～

日時：2015年2月9日（月）、10日（火）
12日（木）、13日（金）

いずれも 14:30～16:00

場所：中央図書館 1F ラーニング・コモンズ

講師：森岡明美（言語教育センター准教授）
田原 誠（附属図書館副館長）

4回シリーズ
です

参加者募集！

学生・留学生対象
定員30名

- **TOK** とは、知識とは何か、知識をどう獲得し、どう使いこなすか、を学ぶもの。いま、世界が注目する国際バカロレア教育の中核をなすプログラムです。

TOK 流の思考をマスターすると

柔軟で客観的なものの見方、論理的な考察力、解が見出せない問いに
対する最善解の考案、多様性の容認、他者の尊重、知的懐疑心
を身につけることができます。

- 予測が難しくグローバル化が進む今の社会を生き抜くために、とても役に立ちます。
- このミニ・セミナーでは、講義とワークショップを通して、**TOK 流に考える方法**を自分のものにしていただきます。ぜひ、ご参加ください！

■ 参加申込み：下記アドレス宛 「2/9 ミニ・セミナー申込み」と記入し お名前、学部、身分を メールでお知らせください。



主催：岡山大学附属図書館

問い合わせ先：附属図書館情報管理課総務グループ

E-mail: lib-event@adm.okayama-u.ac.jp tel:086-251-7304



**Theory of Knowledge
IBDP Category 1 workshop
International School Prague, Czech Republic 19-21 Feb 2015**

Reported by John Rucynski

I. Summary of Workshop

I attended the three day Theory of Knowledge (ToK) Category 1 workshop in Prague on February 19—21, 2015. There were about 12 others in the workshop. It was very helpful to interact with the others, as they all are already currently working in International Baccalaureate (IB)-certified schools. Additionally, the diversity of the group was very helpful, as participants came from countries such as the United Kingdom, Russia, New Zealand, Switzerland, and the Czech Republic.

On **Day 1**, the workshop focused on providing an overview of the ToK approach to education. The main content was on learning about how ToK is divided into a series of “Ways of Knowing” (WOK) and “Areas of Knowledge” (AOK). This series of areas explains how the integrated approach to IB is carried out, as it recognizes that students should always study something while considering a variety of different perspectives. The WOK are divided into: language, sense perception, emotion, reason, imagination, faith, intuition, and memory. Meanwhile, the AOK are mathematics, the natural sciences, the human sciences, the arts, history, ethics, religious knowledge systems, and indigenous knowledge systems. The first day of the workshop was thus devoted to giving examples of how subject matter is approached through these different perspectives and how this guides an IB education from start to finish.

On **Day 2**, the focus was on how assessment is carried out in IB institutions. Although IB is not an assessment-heavy methodology, students do have to produce an extended essay of up to 1600 words and a presentation of at least 10 minutes. On day 2 we practiced assessing versions of each. We watched a full presentation given by a pair of students and discussed our personal opinions and grades before being given the actual result. For the essay, we read a series of different samples and similarly discussed our personal opinions of grades deserved. The workshop leader then gave the real scores with explanation.

On **Day 3**, we focused on a summary of the main ideas and future implementation. The participants talked about ways to share IB resources, such as through internet applications like Dropbox. Additionally, groups summarized what they learned from the workshop and how it would help them to improve their current teaching situation.

II. Application for Okayama University and Japan Teaching Context

As there is now a Japanese version of the IB and this committee has considered how to incorporate elements of IB methodology into the curriculum at Okayama University, I will summarize ways in which I believe such an approach could benefit the staff and students at our institution.

1) **International Mindedness.** International mindedness is one of the guiding principles of the IB approach, so perhaps this is most applicable to Okayama University. As our university is currently striving to be a “super global university,” we need to constantly strive for ways to give our students—and staff—a true international outlook. The IB approach is full of enriching examples which could also advise our current situation. Additionally, having more classes in which Japanese and foreign students have opportunities to interact and share opinions is something which Okayama University should consider. Just having a foreign instructor in an English class is not enough.

2) **Integrated Approach.** As mentioned, in the IB curriculum content is looked at from a variety of different perspectives and areas of knowledge. For example, when studying the issue of HIV, students should consider the issue from a medical, cultural, and economical perspective. Okayama University has a mix of faculties both from the social and natural sciences. At Japanese universities, there is the tendency for students to spend too much time in classes only with students from their respective majors. More shared learning across faculties should be encouraged, and the IB approach offers promising examples of this.

3) **Critical Thinking.** With this committee, one of our research questions has been how to incorporate more critical thinking across the curriculum at Okayama University. With its focus on multiple perspectives and constant questioning of existing knowledge, the IB approach also offers great promise for a stronger component of critical thinking in education. Studies have shown that “Diploma Programme students are more confident in their ability to use critical thinking skills than their non-IB peers, and that DP students envision their future educational success more positively.”

4) **“Alternative” Assessment.** Education in Japan remains test-driven, and a great number of courses at Okayama University seem to depend on a final paper exam as the main means of assessment. According to our workshop leader, IB is “light on assessment.” Of course assessment is needed in all courses, but alternatives to paper tests are needed in order to push students beyond mere rote learning. Assessment tools such as presentations and essays—the two forms of assessment used in IB—give students more opportunities to integrate ideas and express themselves. Students attending a “global university” certainly would benefit from such an approach.

5) **Class Size.** Although I do not have official data, comments from fellow workshop participants seem to suggest that class sizes in IB programs are kept quite small, with perhaps 15-20 students in a class. Of course some lecture-size classes are needed, but Okayama University students also need more opportunities for smaller classes. As just one example, courses in the Language Education center currently average 30 students for classes for “active” skills and 40-45 for classes for “passive” skills. Advanced English courses which have only 10-15 students are very popular among students, but are deemed “too small” by administrators. Truly active classes in which students have active discussions and give presentations—such as in the IB program—need to have fewer students. I have personally found that my students are most likely to participate—and I can thus get the best performance out of them—in smaller classes of 10-20 students. More classes of this size—which can adopt an IB-like approach—should be offered at Okayama University.

知識の理論

IBDP カテゴリー1のワークショップ

チェコ共和国プラハのインターナショナルスクール 2015年2月19～21日

報告 (ジョン・ルシンスキー)

I. ワークショップの要約

私は、2015年2月19日から21日までプラハにおいて、知識の理論のカテゴリー1ワークショップに出席した。ワークショップには私の他に約12人が出席した。そのワークショップはそれぞれが交流することは役に立った。というのは、全員が、すでに国際バカロレアで承認された学校で働いているからである。さらにグループの多様性が、非常に役立った。英国やロシア、ニュージーランド、スイス、チェコ共和国のような国々からの参加者がいたからだ。

1日目、ワークショップは教育に知識の理論(ToK)の全体像を与えることに重点をおいていた。主な内容は ToK を一連の”知る方法”(WOK)と”知識の領域”(AOK)にどのように分けられているかについて学ぶことに関してであった。この一連の分野は、どのように IB への統合されたアプローチが実行されているかを説明している。というのは、このアプローチは学生は勉強するとき、いつも色々な異なった視点を考慮しながらすべきだからだ。WOK は、言語、知覚、感情、理性・理由、想像力、信仰、直観、記憶に分けられる。一方、AOK は、数学、自然科学、人文科学、芸術、歴史、倫理学、宗教に関する知識体系、土地固有の知識体系である。ワークショップの第一日目は、このように、主題が色々な異なった視点からどのようにそれぞれの教科にアプローチするか、そしてこれがどのように最初から最後まで IB 教育を導いているのかの終始 IB を導いていくかの例が与えられた。

2日目の焦点は、アセスメントがどのように IB で実行されるかということであった。IB は、アセスメントに重点を置いている(教育)方法ではないが、学生は 1600 語にまで及ぶエッセイを書き、少なくとも 10 分のプレゼンテーションをしなければならない。2日目に私たちは各々の評価の解釈を練習した。私たちは、二人の生徒が行ったプレゼンテーションを全部見て個人的な意見について討論し、実際与えられた結果を知らされずに成績をつけた。エッセイについては、一連の異なった例を読み同じようにふさわしい成績の個人の意見について討議した。その後、ワークショップのリーダーが、それから実際の点を教え、説明した。

3日目、私たちは、主な考え方と、今後行うことのまとめに重点をおいた。参加者は Dropbox のようなインターネットのアプリケーションを使ったりして、IB のツールを共有する方法について討議した。さらに、グループごとにはワークショップから何を学んだかを、そして現在行われている教授状況をいかに改善するのに役立つかとまとめた。

II. 岡山大学の応募と日本の教授状況

現在、IB の日本版があり、この委員会（＝図書館でのクリティカルシンキングのスタディグループ）は IB の方法の要素をいかに岡山大学のカリキュラムに組み入れるか考えてきたので、ここに、私たちの学生やスタッフに利益になることができると信じる方法をまとめる。

1) 国際性（国際的に考えること）

国際的に考えることが IB アプローチの主な原理の 1 つであるので、おそらくこのことは岡山大学に最も適切である。我が大学は現在スーパーグローバル大学になるよう努力しているので、たえず学生やスタッフに真の国際的な展望を与える方法を求めて努力する必要がある。IB のアプローチは又現在の状況にアドバイスできるであろう豊富な例であふれている。さらに、より多くの日本人や外国人の学生がより協力し合ったり意見を共有したりできるクラスを提供することは岡山大学が考えるべきことである。ただ、英語の授業に外国人の教師を入れることだけでは十分ではない。

2) 統合された取組み

前述のとおり、IB カリキュラムの内容は、多様な異なる観点や、「知識の領域」から調べられる。例えば、HIV の問題を勉強するとき、生徒は、医療、文化、経済の観点から、その問題を考えるべきである。岡山大学には、社会と自然科学からの両方の学部がある。日本の大学では、学生がそれぞれ自分の専攻のクラスだけに多くの時間を費やすという傾向がある。もっと専攻を往還した学びを勧めるべきであり、IB の取組みはこのよい例を示している。

3) 批判的思考

この委員会での我々の研究課題の 1 つは、もっと批判的な思考を岡山大学のカリキュラム全体にどのように組み入れるかである。多様な考え方や今ある知識に常に疑問を持つことを中心に、IB アプローチは教育において批判的思考のより強い策を提供すると誓っている。研究によると IBDP 生は、IBDP 生でない生徒と比べ、批判的思考をする能力に自信を持っていて、将来の教育の成果を前向きに考えているということがわかっている。

4) “代替” アセスメント

日本における教育はテスト中心のままであり、岡山大学で大多数の課程は、アセスメントの手段として期末テストに頼っているようである。私たちのワークショップの指導者によると IB では“アセスメントは比重が軽い。”もちろんアセスメントはすべての課程で必要であるが、ペーパーテストに代わるものが、学生に丸暗記以上のことをさせるために必要である。プレゼンテーションやエッセイ—IB で使われる代替の 2 つの形式—は学生たちに考えをまとめたり、自分たちを表現する機会を多く与える。“グローバルな大学”の学生はそのようなアプローチから恩恵を受けることは確かだろう。

5) クラスの人数

公式なデータは分からないが、ワークショップの男性参加者のコメントでは、IB プログラムのクラスの大きさは、おそらく、ひとクラス 15 人から 20 人の生徒というかなり小さなもののようだ。もちろん、レクチャーサイズのクラスも必要だが、岡山大学の学生には、もっと小さなクラスがあることも必要になってきている。一つの例として、言語教育センターのコースは、現在のところ、**active skills (=speaking & writing)** のクラスに 30 人、**passive skills (=reading & listening)** のクラスに 40 人から 50 人を平均としている。**Advanced English** コースでは、10 人から 15 人と少なく、学生に非常に人気があるが、**administrators** には、少なすぎると考えられている。正直なところ、積極的なディスカッションやプレゼンテーションをするような活動的・能動的なクラスでは —IB プログラムのような— 少ない人数の必要がある。私は、10 人から 20 人の小さなクラスで、学生はもっとも活動的になるということがわかった。—したがって、もっともよいパフォーマンスが得られる— このサイズのクラス —IB のような取組みが導入・実践できる— が岡山大学でも提供されるべきである。

国際バカロレア入試志願者一覧

2015/03/09現在

年度	入学月	学 部	志願者数	条 件 付 合格者数*1	合格者数*2	入学者数
2012	4	マッチングプログラムコース	1	1	1	1
2013	4	マッチングプログラムコース	1	1	1	0
2013	10	マッチングプログラムコース	3	3	2	1
2014	4	マッチングプログラムコース	2	2	1	0
2014	10	マッチングプログラムコース	6	6	3	3
2015	4	合計	9	4	4	2 *3
		【内訳】				
		文学部	1	1	1	0
		教育学部	2	2	0	0
		理学部	1		0	0
		医学部医学科	1		1	1 *3
		医学部保健学科	1	1	1	1 *3
		歯学部	1		0	0
		マッチングプログラムコース	2		1	0
2015	10	マッチングプログラムコース	6	—	—	—

注.
*1 条件付合格者とは，見込み点で出願しデュプロマを取得することを条件で合格とした者
*2 合格者とは，受験の時にすでにフルデュプロマを取得している者
*3 入学手続完了者である。

新入生への日本語補習授業について

国際バカロレア入試で入学した新入生3名に対し、それぞれ経済学部、理学部、環境理工学部のチューターがつき、合計で24時間の日本語補習授業を行った。

岡山大学国際バカロレア入試の設計

— 現状と将来 —

上田一郎，田中克己，飯塚誠也，佐竹恭介，栗原考次
(岡山大学アドミッションセンター)

岡山大学では，2012 年度入試より理・工・農・医（保健）学部及びマッチングプログラムコース（MP コース）で国際バカロレア（IB）4 月入学入試（定員若干人）を取り入れ，2013 年度入試より 10 月入学入試を MP コース（定員若干人）で導入，更に 2015 年度入試では全学部及び MP コースで 4 月入学入試（定員若干人，医学科のみ定員 3 名）に拡大した。

今後 IB 入試を更に拡大・発展させていくにはどのような課題があるのか，IB 教育を取り入れている国内の高等学校及びインターナショナルスクール（以下 IB 校という）に実際にアンケートや訪問取材をすることで見えてきた課題等について報告する。

1. はじめに

本 IB 校調査は，本学が文科省の 2014 年度大学教育改革加速プログラム（入試改革）事業に採択され，その事業の一環として実施したものである。

アンケートは，国内の一条校併設の IB 校（以下一条校という）6 校とインターナショナルスクール（以下 IS という）8 校の協力を得た。

本稿は，そのアンケート結果を分析するとともに，可能な限り IB 校を訪問し教師や生徒と直接面談してまとめたものである。

11～16 歳：中等教育プログラム（Middle Years Programme：MYP）

16～19 歳：ディプロマ・プログラム（Diploma Programme：DP）。

このうち高校の最後の 2 年間に行われる DP が，大学入学資格として世界的に認められるようになっている。現在，DP 認定校は，世界に 2,642 校あり，そのうち国内には 19 校ある。

（IB 認定校数，DP 認定校数は，2014 年 12 月 1 日現在。）

IB が掲げる理念は表 1 の通りであり，IB が目指す学習者像は表 2 の通りである。

2. IB 教育の特色

IB は，1968 年にスイスの教育財団によって設立された国際バカロレア機構（IBO）が，海外に滞在しながら大学進学をめざす生徒のために，世界共通の教育プログラムを開発したことに始まるが，現在では世界 146 か国に 3,964 校の IB 認定校があり，年齢に応じた次の 3 つのプログラムで構成されている。

3～12 歳：初等教育プログラム（Primary Years Programme：PYP）

表 1. The IB mission statement（理念）

- IB は，異文化理解と尊重の精神を通じて，より良い，より平和な世界の実現のために貢献する，探求心，知識，思いやりのある若者を育てることを目的とする。
- この目的を達成するために，IB は，学校や政府，国際機関と協力しながら，チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組む。

- ・ IB プログラムは、世界各地で学ぶ若者たちに向けて、人が持つ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ることを認められる人として、生涯にわたって積極的に、共感する心とともに学び続けるよう働きかける。

表 2. The IB Learner Profile (学習者像)

IB 学習者は、下記のように努力すること。

- ・ Inquirers : 探求する人
- ・ Knowledgeable : 知識のある人
- ・ Thinkers : 考える人
- ・ Communicators
: コミュニケーションができる人
- ・ Principled : 信念を持つ人
- ・ Open-minded : 心を開く人
- ・ Caring : 思いやりのある人
- ・ Risk-takers : 挑戦する人
- ・ Balanced : バランスのとれた人
- ・ Reflective : 振り返りができる人

IB でフル DP の資格を取得するには、次の条件を満たす必要がある。

- 1) 課題論文 (Extended Essay : EE) を提出していること。
- 2) 知識の理論 (Theory of Knowledge : TOK) を履修していること。
- 3) 創造性・活動・奉仕 (Creativity・Action・Service: CAS) 活動に参加していること。
- 4) EE と TOK の評価が D 以上であること。
- 5) 次の 6 グループある科目群の各グループから 1 科目を選択し履修していること。
(1 : Studies in language and literature, 2 : Language acquisition, 3 : Individuals & Society, 4 : Science, 5 : Mathematics, 6 : The Arts)
- 6) 3 科目以上を Higher Level (HL) で履修し、それ以外の科目を Standard Level (SL)

で履修しており、HL の合計が 12 点以上であること。

HL で 2 点は不可、SL で 2 点は 1 科目まで。

- 7) IB の最終試験のスコアが 45 点満点中 24 点以上であること。

3. IB 入試導入までのプロセスと入試結果

本学では、知識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換していくために、2010 年から IB の教育内容や IB 校の生徒の学力、世界の大学の入試制度等について調査・研究を重ねた結果、表 1、表 2 に示した「IB の理念」、「IB の学習者像」に沿って教育を行っている IB を高く評価し、2012 年度 4 月入学入試で、募集人員若干名で 4 学部 1 コース (理、医 - 保健、工、農、MP コース) が IB スコア等の書類選考のみ (医-保健、MP コースは面接を課す) で可否を決める IB 入試を導入した。

表 3 は、本学の IB 入試導入後の入試状況の変遷だが、2013 年度入試で MP コースが募集人員若干人で 10 月入学の IB 入試を、2015 年度入試で全学部及び 1 コースが 4 月入学の IB 入試を導入した。

表 4 の「条件付き合格者」とは、IB の最終試験の正式 IB スコアが発行されるのを待つと、出願締め切りに間に合わないため、各 IB 校が評価した「IB 最終スコアの見込み点」を提出させ、この点数で合格した者が条件付き合格者である。IB の発行する最終試験の IB スコアは、後日、本学が定めた期日までに提出させ、問題がなければ正式な合格者となる。

表 3. IB 入試導入の変遷

年度	4 月入学	10 月入学
2012	理、医 (保)、工、農、MP コース	
2013	理、医 (保)、工、農、MP コース	MP コース

2014	理, 医 (保), 工, 環境理工, 農, MP コース	MP コース
2015	文, 教育, 法, 経済, 理, 医 (医), 医 (保), 歯, 薬, 工, 環境理工, 農, MP コース	MP コース

・医 (医) の募集人員は 3 名, その他は若干人。

表 4. IB 入試の入試結果

年 度	24 春	25 春	25 秋	26 春	26 秋	27 春	27 秋	計
志	1	1	3	2	6	9	6	28
条			3	2	5	4		14
合	1	1	2	1	3	2		10
入	1	0	1	0	3	2		7

・志：志願者，条：条件付き合格者

・合：合格者，入：入学者

4. Language A における Japanese A 履修者の日本語第一言語（日本人）比率

本学で提供しているコースは，2017 年から英語だけで履修し卒業できるコースを開設する予定だが，現時点では日本語コースだけであるので，日本語を第一言語（母語）としている生徒が学生募集のターゲットとなる。

グループ 1 の Language A は，日本語を母語とする生徒のほとんどが Japanese A を履修していると言われているが，実際はどうか，学校の設置区分別に特徴があるか見てみる。

表 5. Japanese A 履修者の日本語第一言語比率（人）

設置 区分	11 年生 (G11)		12 年生 (G12)	
	計	日本人	計	日本人
一条校	71	70(98.6%)	41	41(100%)
IS	42	24(57.1%)	52	38(73.1%)

・日本国籍を持つ者を日本人とした。

・G11, G12 は，一条校の高 2, 高 3 にあたり，この 2 年間のコースでフル DP を取得する。

表 5 の G12 を見ると，一条校と IS は，Japanese A の履修者はそれぞれ 100%，73% が日本語を第一言語（母語）としている。

このことより，現段階では日本語コースだけを持つ本学が IB 校の生徒を受け入れる場合，HL, SL を問わず Japanese A を履修しており，成績評価 4 点以上としておけば問題ないと思われる。

では Japanese B の履修者は学生募集の対象にならないのだろうか？

表 6. Japanese B 履修者の日本人比率（人）

設置 区分	G11		G12	
	日本人	その他	日本人	その他
1 条校	9	0	5	8
IS	17	57	27	51

・日本国籍を持つ者を日本人とした。

表 6 を見ると，Japanese B の履修者の中にある程度の割合で日本人がいる。彼らの属性は帰国子女等で，日本国籍は持っているが，海外での生活が長い等，何らかの理由で Japanese A が履修できないとか，日本語が第一言語であるが Literature のレベルではないために Japanese B を履修している生徒である。

日本人と外国人を含めた Japanese B を履修している生徒が本学の日本語コースの授業を履修できるか否かが問題だが，今回のアンケートでは，Japanese B 履修者は，「日本語での日常生活に支障はないが，大学の日本語コースの授業の履修は難度が高い」とか，「Japanese B の HL で 6 点か 7 点を取るレベルであれば日本語コースの授業は受けられる（または，そのレベルでも日本語の語彙力を考慮すると履修は難しい）」という意見に分かれた。

本学では，IB 校時代に Japanese A を履修していた学生に対して学部専門科目の日本語アシスタントを配備しているくらいなので，Japanese B 履修者を募集対象に加えるのは困

難であると考える。

5. 本学の4月入学入試 IB 入試出願要件

4月入学 IB 入試を行っている全学部・1コース共通の出願要件は、「Language A を Japanese 日本語により履修し（HL か SL は問わない）、成績評価が4以上の者」としており、その他の出願要件は、グループ6以外から1科目 HL で成績評価4以上を求めている募集単位が10学部1コース、理科の HL を2科目課し、成績評価4以上を求めている学部が1学部である。

現時点の本学の出願要件は、IB 校のカリキュラムの実態と合っているかどうか、理科について検証してみる。

表 7. 理科 HL の開講状況 (校数)

開講科目数	一条校	IS
HL 3 科目	1	4
HL 2 科目	2	2
HL 1 科目	2	
HL 0 科目	1	

表 7 を見ると、一条校、IS 校が理科 HL を開講している科目数は2科目以上が多く、理科 HL を2科目課し、要求スコアを4点以上にするのは、出願要件としては差支えないように見える。

しかし、日本人の IB 校生はフル DP 取得に必要な HL3 科目のうち1科目を Japanese A で履修する傾向が強いので、残りの HL の科目で理科を2科目指定し、いずれも成績評価4点以上を要求するのはかなり厳しいようである。

従って、理系の学部が理科の2科目履修を要求する場合、1科目は HL、もう1科目は SL にしておく必要があるだろう。

本学の理科の HL2 科目を指定し、成績評価4以上としている学部は、出願要件緩和の方向で検討に入っている。

因みに、医学部・医学科の理数科目の科目指定は、物理、化学、生物から2科目及び数学（うち1科目は HL 成績評価4以上、他の2科目は SL 成績評価5以上又は HL3 以上）としている。

6. フル DP ではない IB Certificate の生徒に出願資格を与えるか否か

前記 2 で掲げた基準を一つでも満たさなければ、いくら24点以上得点をしてフル DP は取得できない。IB Certificate とは、フル DP の条件には合致しなかったが、IB のいくつかの科目で成績証明書を取得している生徒のことである。その中には、各科目7点満点中高得点を取っている生徒もいる。

IB Certificate の生徒を本学の学生募集のターゲットに加えるか否かについては、そもそも IB 入試を取り入れた経緯、上記 3 に遡って考える必要があるだろう。

IB の価値は、表 1 The IB mission statement (IB の理念) と表 2 The IB Learner Profile (IB の学習者像) に言い尽くされているが、本学がフル DP 取得の生徒に期待するのは、「主体性・リーダーシップ」、「高度な自己管理能力・時間管理能力」、「批評的・批判的思考力」、「分析的思考力」、「創造的思考力」、「異文化に対する理解と思考の柔軟性」、「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」、「語学力」等々を身につけていることであるので、まず IB が認定したフル DP を取得した生徒を最優先で学生募集の対象としている。

IB Certificate の生徒には、最後までフル DP を目指していたが最終試験でフル DP の基準を満たせず認定されなかった生徒や、最初からフル DP を目指していない生徒等がいる。

海外にはカナダのブリティッシュコロンビア大学 (UBC) のように、IB Certificate でも、高校の卒業証明書と学部が指定した科目を履修しており、IB スコアの要件を満たしていれば出願できる大学もあるが、本学はまだ IB 入

試を始めたばかりで十分なエビデンスを持ち合わせていないので、フルDPとIB Certificateの生徒像の比較研究を行っていき、今後のIB入試の拡大につなげていく必要がある。

7. EEを出願書類に加えるか否か

IB校の教員は、EEを出願書類に加えることについて、下記の理由で賛成意見が多かった。賛成意見、条件付き賛成、反対意見の例を掲載する。

【賛成意見】

- ・米国リベラルアーツの大学やアイビーリーグの大学は、論文サンプルの提出を求めることがあるので、それに類するものと考えことはできる。その場合、EEを提出しなさいという指定ではなく、出願分野に関連した自分の実績を提示できる作品等を提出しなさいとなっている。EE Sampleに限らず、国語論文サンプル、Historical Investigation, Math Project, Science Lab report, TOK論文等々、提出可能な作品は多いので、学部が出願者の何を審査したいのかによって提出物を決めた方が、出願者の様子を的確に審査できると思う。
- ・生徒が何に関心を持っていたのか、どのくらいの内容のものを書いたのかということがわかるので、EEを提出させるのは有効だと思う。生徒も相当力を入れて書いているので、読んでもらうことを望んでいるのではないだろうか。
- ・自主的にどれくらい取り組んだのかを見るには有効だと思う。但し、理系志望の生徒が必ずしも理系の科目でEEに取り組むとは限らない。

【条件付き賛成意見】

- ・IBからの正式な評価が出たあとであれば（EEの提出は）問題ないと思う。
- ・EEは、大学で論文を書くための準備だ。例

えば、EEが人間として素晴らしい価値観を示すものであっても、IBが求める論文としての構成やデータの扱い方が評価基準に沿っていなければ、全く点数がもらえない。論文を書く力を審査基準に加えたい等、EEの評価基準が大学にとって求めているものであれば、(EE提出を)加えることに価値があると思うが、価値があるかどうかは、EEで何を大学が見たいのかによると思う。

また、EEの提出を加えることを検討する場合、EEの評価基準を大学がしっかりと把握することが必要だと思う。

【否定的意見】

- ・EEを加えるというのは、提出したEEの成績を合否の基準にするということでしょうか。それともIBに提出するEEを貴学にも提出するというのでしょうか。IBの試験結果をもとに選考するのであれば、EEを出願書類に加える必要はないと思う。
- ・EEの提出を追加することで、IB Certificateの生徒が貴学に出願する可能性を消してしまうかもしれない。

IB最終試験の成績評価にはEEの評価点が含まれている。EEだけを取り上げて、IBの出す最終スコアとは別に本学がEEを評価するということは、EEの配点比率を大きくしたということになる。

IBスコア（教育・医・歯は面接も課す）を含む提出書類だけで合否を決めるのがIB入試だが、IBスコアは信頼しているものの、一人ひとりの生徒がDPの2年間で何に関心を持ち、どのような活動にどれだけ努力し、どのような成果を出したのかという生徒像も何らかの手段で把握しておきたいものだ。

IB校の教師の多くが出願者を審査するために出願書類にEEを加えることに賛成している。

各学部・コースが「出願者の何を審査したい

のか」を明確に持った上で、出願者が DP の 2 年間で成し遂げた成果を示せる (EE に限らない) 成果物を提出させることは意義があるように思う。

8. IB 校の進路指導

IB 校が対応する大学入試は、進学先が国内の大学と国外の大学、秋入学の入試と春入学の入試、入試方法が IB 入試、日本の大学の AO 入試、一般入試等々多岐に渡っている。

IB 校の進路指導は、カレッジカウンセラー (スクールカウンセラー) と DP コーディネーターが中心になって年間行事を立てて計画的に行われている。それに加え、進学先が日本国内であれば日本人教師が付いて指導し、海外の大学は国別 (地域別) に入試方法が異なるため外国人教師が付いて指導し、更にクラス担任やエッセイ指導の教員等が加わって手厚くサポートしている。

一条校、IS の進路指導事例を紹介する。

【一条校の例】

- ・国内の大学の一般入試と国内外の大学の IB 入試の進路説明会を開催している。
- ・毎年秋に、生徒・保護者を引率してカレッジフェアに複数回参加しているが、国内外の大学の校内説明会・個別相談会も受け付けている。
- ・卒業生が学校に戻ってきて大学生活の話をする Q&A セッションを開催している。
⇒その後、個別にメールやスカイプで情報交換をする生徒もいる。
- ・G9, G10: G9, G10 で PSAT, G10 で TOEFL iBT を初めて受験させ、受験の基本情報を提供し、準備させる。
- ・G11: 必要に応じて TOEFL や SAT の受験を勧める。
- ・G12: 頻繁に進路面接を実施している。

【国内の IS の例】

- ・G8: キャリアについて、また大学がそれにどのように役立つのかを学んでいる。
- ・G9: キャリアとは何か、なぜ大学に行くのか、各国の大学のしくみについて学んでいる。
- ・G10: 各国の大学のしくみについて、特にアメリカとイギリスの大学のしくみの違いについて詳しく学んでいる。
- ・G11: 具体的な大学選び、願書出願についての説明、志望理由書指導、生徒と保護者に対する個別の進路指導をしている。
- ・G12: 校内で各大学による入試説明会を実施し、生徒や保護者が直接大学から情報を得る機会を提供し、且つ、カレッジフェアに参加させる等して生徒自身で調べるよう促している。そのような行事を入れながら、個別の進路相談と出願のサポートとそのフォローアップを行っている。

※G8, G9, G10 は、それぞれ一条校の中 2, 中 3, 高 1 にあたる。

9. 生徒たちの進路選択行動と大学の入試広報

生徒は、各校の進路指導行事に則って自分のキャリアについて考え、志望大学を選択し絞り込み、出願に向けた行動を起こす。

IB 校の進路指導スケジュールは、国内外の大学の入試スケジュールに合わせて組まれているので、生徒が志望校・出願校を決める時期は概ね同じになると考えられる。

IB 校では、校内で大学の入試説明会・個別相談会を実施しているが、大学側が入試説明会等の入試広報を実施させていただく時期は、生徒が志望校・出願校リストを作成する前でなければならない。一条校も IS も G11 の終わりから G12 の初めにかけて志望校・出願校を決定しているようなので、それ以前に入試説明会等を実施させていただく必要がある。

今年度、文部科学省の大学教育改革加速プログラム (入試改革) 事業に採択され、本学が知

識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換するというメッセージを書いたポスターを作成し IB 校に送付したところ、かなりの確率で校内の廊下や教員室の壁に貼ってくださっていた。

IB 校を 1 校 1 校訪問して入試説明会を開催するのもよいが、世界中の IB 校を訪問することはできないので、国内の大学のほとんどが IB 入試を行っていない今の時期は、本学が IB 入試を行っているということの認知度が低いであろうから、まず IB 校の生徒に本学が IB 入試を行っていることを周知することが重要で、そのためには IB 入試を実施していることを告知するためのポスター等を作成し、世界中の Japanese A を開講している IB 校にだけでも送付しておくべきではないかと考える。

生徒の志望校・出願校決定のプロセスを、一条校、IS の生徒の事例を記しておく。

【一条校の例】

- ・G10：だいたいの方向性を決める。
国内の大学の一般入試を考えるのであれば、受験科目を意識して家庭学習をする。
- ・G10 後半：文系理系の方向性の決定し、DP の科目を決めるため、各大学・学部でどのような科目要件と IB スコア要件があるのかを確認する。
- ・G11 後半まで：大学と学部を予備的に決める。
- ・G12 春：志望大学・学部を決定する。
- ・G12 の 1 学期末試験後：期末試験が最終 IB 試験に向けての準備試験の役割を果たすため、このスコアでどの程度の仕上がり具合かを確認しながら最終出願校を決定していく。海外の大学は、早くて 10、11 月出願で（これは珍しいが）、大半は 12 月後半から 1 月にかけて出願している。従って、G12 の夏あたりには、だいたいの出願校リストを作成している。その後の DP の仕上がり具合とその他のテストスコアを見ながら、出願校を絞っていく。

【IS の例】

- ・G11 の終わりから G12 に進学する夏休み：
だいたいの生徒が出願校リストを作成する。
- ・G12 の 9 月：イギリス・アメリカの大学への出願が始まり、出願のピークは 12 月から 1 月にかけて。
可否結果がわかるまで数週間から数か月かかるが、早い生徒で 12 月、多くの生徒が 3 月から 4 月にかけて可否結果を受け取り、5 月頃までにはほとんどの生徒の進学先が決まる。

10. まとめ

2014 年 12 月の中教審答申(高大接続答申)で示された教育改革は、明治以来の教育改革を目指していると言われ、2020 年度には大きな入試改革がなされようとしている。

本学では、知識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換していくために、IB の教育内容や教育成果等を高く評価し、募集定員若干人ではあるが 2015 年 4 月入学入試で IB 入試を全学で取り入れた。

本学には IB 入試で入学した学生が 5 名いるが、彼らは、グローバル人材育成特別コースに優先的に在籍しており、そのコースの学生とともに学外での活躍は目覚ましいものがあるのでその一例を紹介する。

【活動事例】

- ・我が国が経済協力開発機構 (OECD) に加盟して 50 周年となる 2014 年に、OECD Student Ambassador の全国 8 大学の一つに選ばれ、OECD の意識度調査や広報ポスターを作成し、一年を通じてワークショップや講演会の開催をしてきた。
- ・国際協力機構 (JICA) の国際フィールド・スタディプログラムで、18 日間ベトナムの現地調査を行い、発展途上国の現状や問題点を多角的に見つめ、ODA 等の現場体験をした。

但し、IB 入試で入学してきた学生は、学部
の科目の専門用語で日本語のアシスタントを
付ける必要がある等、全てが順調というわけ
ではない。

今後、IB 入試で入学した学生の学修面、生
活面、卒業後の進路面等の追跡調査・検証を重
ね、個々の問題に対応していきながら、募集定
員を増やし定員化していき、更には、秋入学の
IB 入試の実施学部の枠も広げていきたいと考
えている。

【謝 辞】

本研究は、文部科学省 大学教育改革加速プ
ログラム（入試改革）事業により実施された。

【参考文献】

相原憲昭・岩崎久美子編著（2007）

『国際バカロレア 世界が認める卓越した教
育プログラム』明石書店

田口雅子（2012）

『国際バカロレア 世界トップの教育への切
符』松柏社

坪谷ニューエル郁子（2014）

大学教育改革加速プログラム 岡山大学キッ
クオフシンポジウム配布資料

岡山大学 2015 年 4 月入学 国際バカロレア
（AO 入試）学生募集要項

IBO<<http://www.ibo.org/en/>>

UBC の IB Certificate の出願要件

<<http://you.ubc.ca/admissions/international-baccalaureate/>>

国際バカロレア入試についての研修

1. 本学での研修内容

本学において、他大学からの研修者を対象に、国際バカロレア入試の実施状況および今後の課題、国際バカロレア入試で入学した学生への教育についての説明を行った。

本学への研修者については以下の表の通りである。

日付	大学	職名	氏名
平成 26 年 10 月 9 日 (木)	北海道大学	高等教育推進機構 教授	鈴木 誠
〃	〃	高等教育推進機構 准教授	飯田 直弘
平成 26 年 11 月 27 日 (木)	横浜国立大学	学務・国際部入試副課長	高橋 賢次
〃	〃	学務・国際部入試第三係長	真畑 健
〃	〃	経営学部経営学務係員	中兼 優介
〃	〃	理工学部入試係員	植田 紅良
平成 27 年 1 月 9 日 (金)	鹿児島大学	准教授	竹内 正興

2. 講演会

平成 27 年 3 月 5 日 (木) 13:30～16:30 に東京グランドホテルで開催された公立大学協会第 3 回副学長等協議会にて、講演を行った。本学からの講演者および内容については以下の通りである。

講演者：岡山大学 アドミッションセンター 准教授 上田 一郎

テーマ：岡山大学における入試改革について

3. 他大学から本学の国際バカロレア入試（AO入試）に関するアンケート調査

Q1. 選抜の時期と合格発表の時期が非常に早く感じられますが、この時期に実施している理由等がありますでしょうか。

A. 海外、特に欧州のIB校は卒業時期が6月のため4月入学入試の募集時期を国内の募集時期の早いAO入試で8月1日に設定しています。

Q2. 選抜に際しては、各学部が個別に審査を行うのでしょうか。あるいは各学部等から選出された、あるいは入学者選抜部門等所属教員などの合議形式による選抜でしょうか。

A. 各学部で教授会に諮って決定し、その後アドミッションセンター運営委員会で承認

しています。

Q3. 書類審査の実施にあたり、何らかの選抜基準を作成されていますでしょうか。

A. 各学部の判断となります。

Q4. 選抜基準を作成されている場合、学部共通の基準でしょうか。あるいは 学部等の独自選考基準でしょうか。

A. 各学部の判断となります。

Q5. 選抜の書類審査を行う上でIBの成績評価証明書が必要ですが、選抜を行う時点では提出できない者として11月IB受験予定者は、具体的にどのように判定されていますでしょうか。（学校から提出される予測点数を判定に活用？）

A. 制度導入当時は、成績評価証明書を提出出来る者ということで、既に卒業した者を対象としておりましたが、昨年度、出願資格を見込み証明（予測点による）でも出願出来るように改善しました。

Q6. 6科目の総合成績は、何点程度を合格基準とされていますでしょうか。

A. 現在はIBフルディプロマを取得出来る最低点24点以上としております。

Q7. 一般的には時間をかけた丁寧な面接と言われておりますが、面接にかかる所要時間は1名あたりどのくらいで実施していますでしょうか。

A. 実施学部の判断によります。

Q8. 最も早い合格発表は8月下旬ですが、入学までの間に何らかの課題を与えるなど事前教育の取り組みは行われていますでしょうか。されている場合は、どんな課題を与えていますでしょうか。

A. 課題では無く科目履修の制度を利用しています。

Q9. 志願者の日本人・外国人の割合は

A. 本学の場合は日本人学生が100%です。

Q10. 当初の広報活動はどのようなことをされましたでしょうか

A. WebでIB校を探し、担当者とアポイントメントを取り現地へ赴き大学説明をさせて貰うなど、足を運んで今の志願者数を確保しています。